

平成 28 年度
事業報告書

Annual report



学校法人 高田学苑

Takada Gakuen

Contents

法人の概要

・・・ 2～10

建学の精神/教育方針/設置する学校、定員及び現員/役員・評議員/教職員数/組織構成図
校舎敷地および建物等の概要/学生・生徒 志願者数推移/在籍者数推移/進路状況

事業実績の概要

・・・ 11～19

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況/監査法人監査報告/安全管理への取り組み
夏期教職員研修会（講演会）/教職員の健康管理体制/高田学苑ロゴマークの決定/教職員の表彰
教職員の異動状況/給付型奨学金・授業料等減免（助成）・短期大学入学金免除制度
高田学苑クラブチーム事業報告

教育活動の実績

高田短期大学

・・・ 20～57

時代・社会の変化に即応した取り組み

学士力向上を目指した教育課程の展開/主体性・協調性を育む短大生活支援
キャリア教育・キャリア支援の充実/学生募集と高大交流事業

地域への社会貢献事業

高田短期大学公開講座/教員免許状更新講習/Mie保育士人材バンク「takada-jc」
みえアカデミックセミナー2016

子ども学科/キャリア育成学科 全体/キャリア育成学科 オフィスワークコース
キャリア育成学科 介護福祉コース

地域連携施設

仏教教育研究センター/育児文化研究センター/キャリア研究センター/介護福祉研究センター

その他の学内情報

開学50周年記念事業の実施/津市と連携協力協定の締結/「高等教育コンソーシアムみえ」の活動
「私学連携協議会みえ」FD・SD研修会/短期大学FD・SD研修会/仏教行事委員会

平成28年度の新しい試みへの挑戦

施設設備の整備事業の実績

高田中学校・高等学校

・・・ 58～70

キャリア教育の推進/部活動の推進/防災教育・危機管理教育の取り組み/教職員資質向上への取り組み

ICT教育とアクティブラーニング導入の検討について/きめ細やかな学習指導の推進

命の大切さを考える教育の推進/国際交流事業/語学研修/学校自己点検・学校関係者評価

大学等との連携事業/教職員海外研修/人権教育研修の推進/少子化に伴う生徒募集活動

学校安全・生活指導、保健計画の推進/施設設備の整備事業の実績

財務の概要

・・・ 71～80

資金収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）

事業活動収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）

平成28年度補助金一覧表

貸借対照表の概要

財産目録

法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。



教育方針

短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としている。



中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。



設置する学校、定員及び現員

- ◆ 高田短期大学 三重県津市一身田豊野 1 9 5
- ◆ 高田高等学校 三重県津市一身田町 2 8 4 3
- ◆ 高田中学校 三重県津市一身田町 2 8 4 3

(平成28年5月1日現在)

高田短期大学

学科名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計
子ども学科	150名	300名	148名	165名	313名
キャリア育成学科	100名	200名	100名	70名	170名
〔 オフィスワークコース	〔 60名	〔 120名	〔 77名	〔 53名	〔 130名
〔 介護福祉コース	〔 40名	〔 80名	〔 23名	〔 17名	〔 40名
合 計	250名	500名	248名	235名	483名

高田中・高等学校

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田高等学校	584名	1,714名	616名	598名	569名	1,783名

(学則定数730名)(3ヵ年計2,190名)

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田中学校	180名	560名	189名	182名	190名	561名

(学則定数240名)(3ヵ年計720名)

役員・評議員

(平成28年5月31日現在)

理事			定数10名 実数9名
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	安藤 光淵	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 栗原 廣海 梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長(学苑長) 高田短期大学 学長 高田中・高等学校 校長	
第3号 評議員	望月 演 井村 正勝 永井 玲子 志田 行弘 岩崎 克彦	(宗)真宗高田派 光圓寺住職 井村屋グループ(株) シニア・フェロー 医療法人永井病院 理事 三重テレビ放送(株) 相談役 医療法人思源会 常務理事	

監事			定数2名 実数2名
区分	氏名	現職等	
監事	下津 和文 紀太 允	下津醤油(株) 代表取締役会長 (一社)三重県警備業協会 監事	

評議員			定数21~25名 実数21名
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	安藤 光淵	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 栗原 廣海 梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長(学苑長) 高田短期大学 学長 高田中・高等学校 校長	
第3号 法人職員	千草 篤麿 杉浦 礼子 米田 眞 下村 尚	高田短期大学 子ども学科長 高田短期大学 キャリア育成学科長 高田中・高等学校 教頭 高田中・高等学校 教頭	
第4号 功労者	望月 演 井村 正勝 岩崎 克彦 柘植 宗隆	(宗)真宗高田派 光圓寺住職 井村屋グループ(株) シニア・フェロー 医療法人思源会 常務理事 元高田高等学校教頭	
第5号 卒業者	前畑みち代 松田 英明 倉田 栄治 伊藤 博康	高田短期大学非常勤講師、育児文化研究センター客員研究員 三重中セキ販売(株) 代表取締役社長 (株)津ドライビングスクール 代表取締役 (有)平治煎餅本店 代表取締役	
第6号 本山総務	鈴木 紀生	(宗)真宗高田派総務	
第7号 学識経験者	坪井 俊輔 永井 玲子 落合 壽 志田 行弘	弁護士 坪井法律事務所 医療法人永井病院 理事 元津市議会議員 三重テレビ放送(株) 相談役	

教職員数

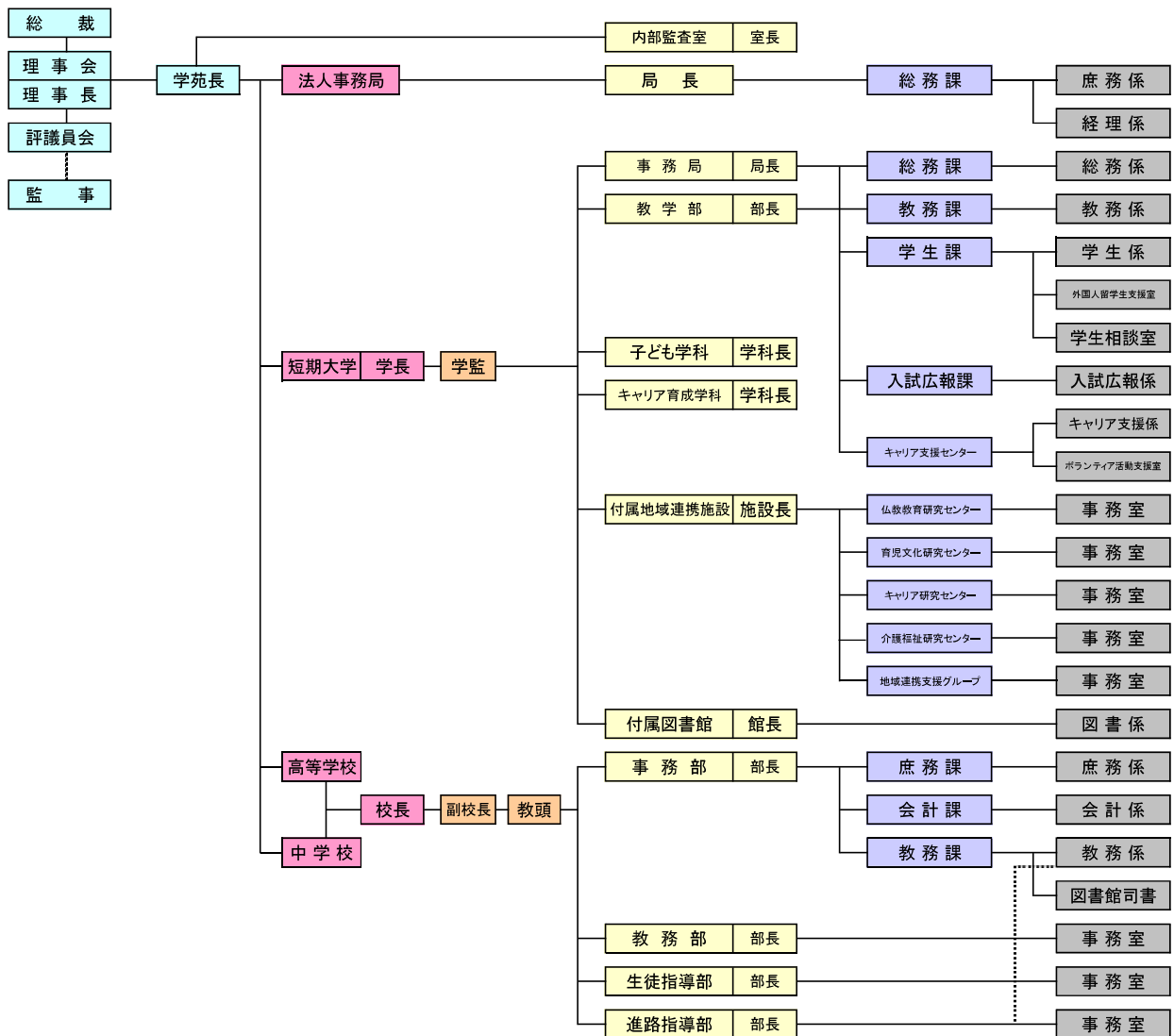
(平成28年5月1日現在)

	教 員		職 員		合 計	
	本務教員	兼務教員 嘱託・非常勤等	本務職員	兼務職員 嘱託・非常勤等		
本 部	—	—	7名	1名	8名	
短 期 大 学	子ども学科	15名	31名	14名	10名	70名
	キャリア育成学科	11名	33名	7名	3名	54名
	オフィスワークコース 介護福祉コース	〔 7名 〔 4名	〔 16名 〔 17名	〔 6名 〔 1名	〔 3名 〔 0名	〔 32名 〔 22名
高等学校	94名	42名	8名	10名	154名	
中学校	28名	9名	4名	0名	41名	
合 計	148名	115名	40名	24名	327名	

(注) 学苑長は学苑本部の本務職員に、短大学長は子ども学科の本務教員に含む。

また、短大の兼務教員数には非常勤講師の後期採用者も含む。

組織構成図



校舎敷地および建物等の概要

区分	専用面積㎡	計面積㎡	所在地	権利の所属	備考	
短期大学用地	校舎敷地	7,399	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	3,279	〃	〃	緑地等
	計	18,991	18,991			
上記以外の学校用地	中学校校舎敷地	1,274	1,274	津市一身田町他	自己所有	内 借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	15,180	〃	〃	内 借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	49,169	49,169	〃	〃	内 借用3,275㎡
	その他	9,875	9,875	〃	〃	内 借用1,663㎡
	計	89,979	89,979			
合計	108,970	108,970				
校地以外の土地	61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山林	

短期大学の部

区分	面積㎡	室数	構造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺3階建	〃
部室	31.68	2	鉄骨造2階建	〃
その他	16.98			〃
計	12757.62	134		

法人本部、高等学校・中学校の部

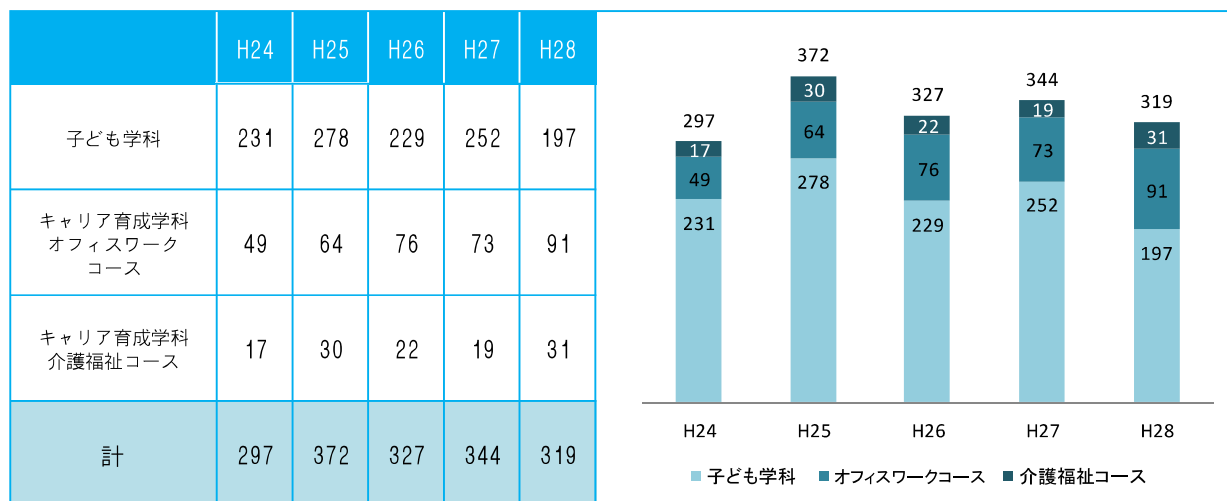
区分	面積㎡	室数	構造	権利の所属
本館	4721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	自己所有
1号館	2722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
2号館	2155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
3号館	2609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
4号館	3125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
5号館	4113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
管理棟1	207.23	5	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
管理棟2	98.88	4	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
厩舎棟	396.00	8	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
第1体育館	3819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
第2体育館	1889.03	12	鉄筋コンクリート造切妻屋根3階建	〃
クラブハウス	422.10	29	鉄筋コンクリート造2階建	〃
プール施設棟	337.58	2	鉄筋コンクリート造2階建	〃
施設管理棟	122.40	4	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平屋建	〃
その他	152.38			〃
計	26892.41	220		
合計	39650.03	354		

備考（その他／機械室6.62㎡ 倉庫東、西47.95㎡ 渡り廊下67.50㎡ テニスコート部室30.31㎡）

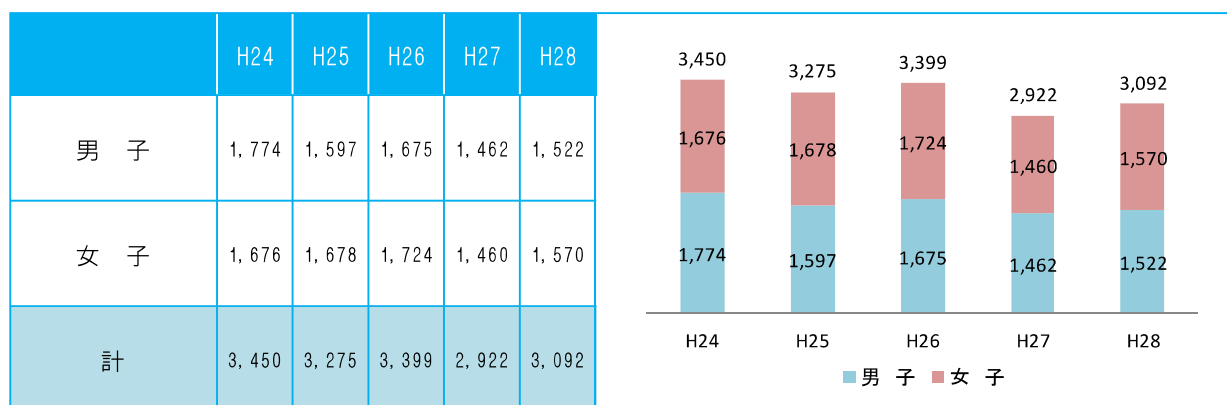
学生・生徒 志願者数 推移

(平成28年5月1日現在)

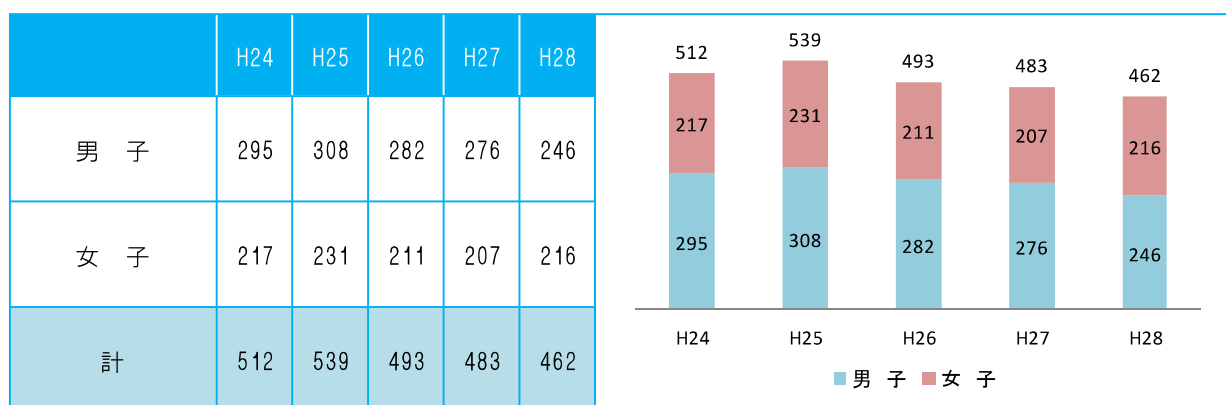
短期大学



高等学校



中学校



学生・生徒 在籍者数 推移

(平成28年5月1日現在)

短期大学

区分	項目	H24	H25	H26	H27	H28																													
子ども学科	在学生数	309	316	314	313	313	<table border="1"> <caption>子ども学科 在籍者数推移</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>項目</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>在学生数</td> <td></td> <td>309</td> <td>316</td> <td>314</td> <td>313</td> <td>313</td> </tr> <tr> <td>収容定数</td> <td></td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td></td> <td>103%</td> <td>105%</td> <td>105%</td> <td>104%</td> <td>104%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	項目	H24	H25	H26	H27	H28	在学生数		309	316	314	313	313	収容定数		300	300	300	300	300	充足率		103%	105%	105%	104%	104%
	区分	項目	H24	H25	H26	H27		H28																											
	在学生数		309	316	314	313		313																											
収容定数		300	300	300	300	300																													
充足率		103%	105%	105%	104%	104%																													
収容定数	300	300	300	300	300																														
充足率	103%	105%	105%	104%	104%																														
オフィスワーク育成コース	在学生数	110	104	121	117	130	<table border="1"> <caption>オフィスワーク育成コース 在籍者数推移</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>項目</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>在学生数</td> <td></td> <td>110</td> <td>104</td> <td>121</td> <td>117</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>収容定数</td> <td></td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td></td> <td>92%</td> <td>87%</td> <td>101%</td> <td>98%</td> <td>108%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	項目	H24	H25	H26	H27	H28	在学生数		110	104	121	117	130	収容定数		120	120	120	120	120	充足率		92%	87%	101%	98%	108%
	区分	項目	H24	H25	H26	H27		H28																											
	在学生数		110	104	121	117		130																											
収容定数		120	120	120	120	120																													
充足率		92%	87%	101%	98%	108%																													
収容定数	120	120	120	120	120																														
充足率	92%	87%	101%	98%	108%																														
キャリア福祉コース	在学生数	42	38	42	35	40	<table border="1"> <caption>キャリア福祉コース 在籍者数推移</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>項目</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>在学生数</td> <td></td> <td>42</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>35</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>収容定数</td> <td></td> <td>80</td> <td>80</td> <td>80</td> <td>80</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td></td> <td>53%</td> <td>48%</td> <td>53%</td> <td>44%</td> <td>50%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	項目	H24	H25	H26	H27	H28	在学生数		42	38	42	35	40	収容定数		80	80	80	80	80	充足率		53%	48%	53%	44%	50%
	区分	項目	H24	H25	H26	H27		H28																											
	在学生数		42	38	42	35		40																											
収容定数		80	80	80	80	80																													
充足率		53%	48%	53%	44%	50%																													
収容定数	80	80	80	80	80																														
充足率	53%	48%	53%	44%	50%																														
計	在学生数	461	458	477	465	483	<table border="1"> <caption>計 在籍者数推移</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>項目</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>在学生数</td> <td></td> <td>461</td> <td>458</td> <td>477</td> <td>465</td> <td>483</td> </tr> <tr> <td>収容定数</td> <td></td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td></td> <td>92%</td> <td>92%</td> <td>95%</td> <td>93%</td> <td>97%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	項目	H24	H25	H26	H27	H28	在学生数		461	458	477	465	483	収容定数		500	500	500	500	500	充足率		92%	92%	95%	93%	97%
	区分	項目	H24	H25	H26	H27		H28																											
	在学生数		461	458	477	465		483																											
収容定数		500	500	500	500	500																													
充足率		92%	92%	95%	93%	97%																													
収容定数	500	500	500	500	500																														
充足率	92%	92%	95%	93%	97%																														

中・高等学校

区分	項目	H24	H25	H26	H27	H28	
高等学校	在学学生数	1,818	1,801	1,838	1,797	1,783	
	収容定数	1,725	1,695	1,705	1,690	1,714	
	充足率	105%	106%	108%	106%	104%	
中学校	在学学生数	602	605	600	574	561	
	収容定数	600	600	600	580	560	
	充足率	100%	101%	100%	99%	100%	
計	在学学生数	2,420	2,406	2,438	2,371	2,344	
	収容定数	2,325	2,295	2,305	2,270	2,274	
	充足率	104%	105%	106%	104%	103%	

学生・生徒 進路状況

短期大学

卒業生・進学者・就職者数

(平成29年5月1日現在)

	子ども学科	キャリア育成学科		合計	摘要
		オフィスワーク	介護福祉		
卒業生	162	50	17	229	
就職希望者	158	49	16	223	
就職決定者	158	48	16	222	
未内定者	0	1	0	1	
進学者	3	0	0	4	大学編入・専門学校等
その他	1	1	1	6	家事従事等

過去3ヶ年の公務員試験合格者

●子ども学科

市町名	職種	現役学生			卒業生			計		
		H26	H27	H28	H26	H27	H28	H26	H27	H28
津市	保育士	1	2	2	3		5	4	2	7
桑名市	保育教育職						1			1
四日市市	保育士					2	2		2	2
伊勢市	保育士		1	1	1	1	1	1	2	2
松阪市	保育士・幼稚園教諭	2	1	2	2	2	1	4	3	3
鈴鹿市	保育士・幼稚園教諭	2	1					2	1	
亀山市	保育士・幼稚園教諭	1		1				1		1
鳥羽市	保育士		1		1	1	2	1	2	2
志摩市	保育士・幼稚園教諭		1	3					1	3
伊賀市	保育士・幼稚園教諭		1						1	
名張市	保育士・幼稚園教諭						1			1
菰野町	保育士・幼稚園教諭	1						1		
多気町	保育士	1	3		1			2	3	
明和町	保育士・幼稚園教諭	1	1					1	1	
大台町	保育士	2	1				1	2	1	1
玉城町	保育士	1			1		1	2		1
大紀町	保育士			1			2			3
新宮町	保育士・幼稚園教諭			1						1
計		12	13	11	9	6	17	21	19	28

●キャリア育成学科 オフィスワークコース

年度	採用試験名	職種	現役学生	卒業生	計
H26	裁判所職員	事務	1		1
H27	弥富市役所	事務	1		1
H28	三重県警察	事務	1		1

主な就職先・配属先

(平成29年5月1日現在)

子ども学科	(公立)丹鶴幼稚園 ゆりかご園 認定こども園アスレ 志島保育所 花岡保育園 上野保育園 高野保育園 三郷保育園 内山保育園 志摩幼保園 磯部保育所他 (私立)あおい幼稚園 白百合幼稚園 津西幼稚園 道伯幼稚園 ときわ幼稚園 まきば幼稚園 亀山愛児園 神戸保育園 高花平保育園 久居保育園 フジ保育園他
キャリア育成学科	旭工機(株) (株)エムワン ダイヤ燃焼(株) (株)第三銀行 (株)中勢ゴム (株)松菱 津安芸農業協同組合 トヨタカローラ三重(株) (株)トヨタレンタリース三重 中北薬品(株) (株)百五銀行 百五不動産調査(株) 船谷建設(株) (株)三重銀行 三重中央農業協同組合 三重いすゞ自動車(株) (株)ミツイバウ・マテリアル他
介護福祉	桑名市社会福祉協議会 榊原白鳳病院 シルバーケア豊壽園 高田慈光院 富田浜病院 報徳院 村瀬病院 あがた福祉の会くぬぎの木他

高等学校

卒業者・進学者・就職者数

		男	女	計
三年制	I類	90	93	183
	II類	100	91	191
六年制		110	84	194
計		300	268	568

進学合格者のべ数

		三年制				小計	六年制		小計	合計
		I類		II類			現	卒		
		現	卒	現	卒					
大学 四年制	国立	0	0	24	7	31	81	13	94	125
	公立	0	0	6	0	6	8	4	12	18
	私立	130	0	282	33	445	294	102	396	841
文部科学省所管外		0	0	0	1	1	0	0	0	1
海外		0	0	0	0	0	0	0	0	0
短大	公立	0	0	4	0	4	0	0	0	4
	私立	33	1	10	0	44	0	0	0	44
国公立各種・専門学校		2	1	5	0	8	0	0	0	8
私立各種・専門学校		38	1	14	1	54	0	0	0	54
就職		2	0	0	0	2	0	0	0	2
合計		205	3	345	42	595	383	119	502	1097

主な進学先

(平成29年4月4日現在)

国公立大学 143名		(医学科 37)	
東京大学 7	大阪大学 7	一橋大学 1	横浜国立大学 2
京都大学 11 (医学科 2)	熊本大学 1 (医学部 1)	愛媛大学 1 (医学群 1)	三重大学 38 (医学科 18)
名古屋大学 10 (医学科 2)	東北大学 1 (医学部 1)	神戸大学 5 (医学科 2)	岐阜大学 3 (医学科 2)
私立大学 841名		(医学科 35)	
慶應義塾大学 17 (医学部 1)	中央大学 14	関西大学 17	南山大学 29
	明治大学 28	近畿大学 38	中京大学 28
早稲田大学 30	同志社大学 51	自治医科大学 1	名城大学 28
東京理科大学 13	立命館大学 42	愛知医科大学 4	法政大学 3
青山学院大学 7	日本大学 8	京都産業大学 31	龍谷大学 13
関西学院大学 13	愛知大学 10	皇學館大学 39	鈴鹿医療科学大学 36
短期大学 48名		所管外大学校等 1名	
高田短期大学 39	三重短期大学 4	防衛大学校 1	
専修学校 62名			
三重看護専門学校 7	三重中央看護学校 1	松阪看護専門学校 4	名古屋工学院専門学校 3

事業実績の概要

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況

平成28年度は高田学苑寄附行為に基づき、計4回の理事会、4回の評議員会を開催しました。また、高田学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査に加え、内部監査委員による監査を行い、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか、外部及び内部から監督・指導を受けています。平成28年度に行われた各会の開催日と議題は以下になります。

理事会	第1回	平成28年5月30日（月）	任期満了に伴う監事の選出について 平成27年度決算の承認について
	第2回	平成28年5月30日（月）	平成27年度決算の承認について
	第3回	平成28年11月8日（火）	平成28年度第1回収支補正予算（案）について 高田短期大学学則の一部改正（案）について
	第4回	平成29年3月27日（月）	平成28年度第2回収支補正予算（案）について 平成29年度収支当初予算（案）について 育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正（案）について 学校法人高田学苑給与規程の一部改正（案）について
評議員会	定 時	平成28年5月30日（月）	平成27年度決算の承認について
	臨 時	平成28年5月30日（月）	任期満了に伴う高田学苑監事の選任について 任期満了に伴う高田学苑理事の選任について
	臨 時	平成28年11月8日（火）	平成28年度第1回収支補正予算（案）について
	定 時	平成29年3月27日（月）	平成28年度第2回収支補正予算（案）について 平成29年度収支当初予算（案）について
監事会	決算期	平成28年5月25日（水）	平成27年度短期大学及び中高等学校概要報告 平成27年度決算審査関係 決算審査関係質疑応答及び実査 平成27年度事業実績報告 質疑応答
	上半期	平成28年11月2日（水）	平成28年度短期大学及び中高等学校概要報告 平成28年度第1回補正予算書（案）及び現預金状況 平成28年度事業実績報告（中間） 質疑応答及び実査
内部監査委員会	第1回	平成28年5月23日（月）	平成27年度短期大学及び中・高等学校概要報告 平成27年度事業実績報告 平成27年度決算概要報告 学苑管理運営等について（質疑応答）
	第2回	平成28年10月31日（月）	平成28年度短期大学及び中高等学校概要報告 平成28年度事業実績報告（中間） 現金、預金及び有価証券の状況 学苑管理運営等について（質疑応答）

監査法人監査報告

監査法人監査 監査法人名：五十鈴監査法人	
4月 4日（月）現金、通帳、証書の実査	12月 14日（水）平成28年11月までの取引記録
5月 17日（火）平成27年度決算監査①	1月 6日（金）平成28年12月までの取引記録
5月 19日（木）平成27年度決算監査②	2月 22日（水）平成29年1月までの短大取引記録 及び短大固定資産実査
6月 14日（火）平成27年度決算監査③	
9月 30日（金）平成28年8月までの 取引記録	3月 23日（木）平成29年2月までの取引記録及び 中高固定資産実査

安全管理への取り組み

AED（自動対外式除細動器）設置（8台）

短期大学	1号館 1階正面玄関	
中・高等学校	本館 正面玄関 (地域住民への対応)	西グラウンド管理棟 1 2階管理室 西グラウンド管理棟 2 2階管理室
	4号館 1階保健室	西グラウンド厩舎棟 1階管理室前（外部）
	第1体育館 2階体育教室	多目的グラウンド クラブハウス横倉庫



地域避難所（体育館）の指定・防災倉庫の設置

高田学苑は津地域避難所として指定されています。これに伴い短期大学及び中・高等学校に防災倉庫を設置し、備蓄品の保管をしています。

生徒・教職員は勿論のこと地域住民の皆様方の、災害時における危険回避のための避難が円滑に行われるように、避難場所の周知を行っています。



非常食等の備蓄

東海地方では、近い将来東海・東南海連動型地震が発生することが危惧されています。東日本大震災、熊本地震の教訓を生かし、いつ、どこで起こるかわからない災害に備え、本年度も新入生の学生生徒分の非常食等備蓄品（白い小箱）を購入しました。

この「白い小箱運動」は単なる非常食等備蓄品の保管に留まらず、詰め込み・搬入作業を行う障がい者の方々の就労支援や、非常食等備蓄品を学生生徒が卒業時に寄付する事で、海外で援助を必要としている人たちや周辺地域の方々への援助など、社会貢献活動として意義のあるものとなっております。



緊急地震速報受信システムの運用

平成22年12月より中・高等学校及び短期大学に緊急地震速報受信システムを導入しています。これは震度5弱以上の地震が発生した場合、津地区に大きな揺れが到達する前に、校内に一斉放送で知らせることにより、生徒及び教職員の安全を確保するものです。

防災訓練では実際にこのシステムを利用して、震度5弱の地震を想定した放送を流し、生徒・教職員及び地域住民の方の避難訓練に役立てています。



ポケット防災ガイドの配布

大規模な地震が発生すると予想されている昨今、地震発生時に学生生徒及び教職員がスムーズに避難できるように災害発生時の対応をマニュアル形式で記載した名刺サイズの防災ガイドを、短期大学・高等学校別に作成し、新入生と本年度採用教職員に配布しました。

近年は地震のみならず台風や大雨などによる甚大な被害も全国各地で起きていることから、地震・津波・風水害・火災それぞれに対応できるよう色分けをして記載しています。

学生生徒及び教職員はこの防災ガイドを常に携帯し、今後災害発生時の対応に役立ててくれるよう啓蒙活動にも力を入れていきます。



緊急災害時避難場所開設フローチャート

中・高等学校が津市の地域防災一次避難所に指定され、防災倉庫が設置されたことにより、高田学苑においても周辺地域の避難場所としての責務に応える必要があります。

緊急災害時の混乱が予想される状況において、迅速に避難所を開設するために、「緊急災害時避難場所開設フローチャート」を掲示しています。このチャートを事務職員の意識付けに役立て、緊急災害時における迅速な避難場所の開設に役立てていきたいと思えます。



非常食等備蓄品(白い小箱)の寄付

本学苑では、日本非常食推進機構と締結した「災害用物資を活用した防災活動に関する協定」に基づき、学生・生徒が卒業時に白い小箱を寄付することで地域の方々や食糧援助を必要とする海外に援助を行う「白い小箱運動」に参加しています。

本年度は、日本非常食推進機構を通じて障害者入所・支援施設等を運営する社会福祉法人三重県厚生事業団へ白い小箱を220個寄付し、8月25日(木)に贈呈式を行いました。また、12月5日(月)には市内の特別養護老人ホーム高田光寿園を短期大学の学生自治会代表7名が訪問し、300個を寄贈しました。



夏期教職員研修会(講演会)

毎年実施しております教職員研修会が、平成28年8月19日(金)に高田高等学校本館の講堂において、教職員約200名、保護者・周辺地域住民約50名の合計約250名の参加者を迎え今年も盛大に開催されました。

高田学苑長の挨拶から始まり、第一部はLGBT(性的マイノリティ)を含む多様性の啓発活動をされている山口颯一氏を講師に迎え、「性別って、2つだけ? ~知らないじゃ済まされないLGBT~」と題した講演を行っていただきました。山口氏本人のLGBT当事者としての経験や当事



者の相談を10代の頃から何百件と受けた経験を活かし、LGBTについて正しく知ること、また、ひとりひとりの個性や違いを認め合うことの大切さをお話いただきました。

質疑応答では教員から、実際にLGBTの学生生徒が入学した際に、制服などの問題をどのように対応したらよいかを尋ねる質問が出ました。生徒と向き合い、想定されることを説明した上で本人の意志を尊重することが大切であると山口氏は答え、そういった体制はLGBTのみならず日頃の生徒対応においても重要であるということを改めて考える機会となりました。

第二部は家庭裁判所調査官として4000件を超える少年事件に関わられ、現在鈴鹿医療科学大学で司法福祉学を専攻に研究されている藤原正範教授に、「子どもの成長をと発達を考える～非行・いじめの事例を通して～」と題した講演を行っていただきました。

マスコミでも大々的に報道された、実際に起きた二つの少年事件を事例に挙げ、日常に溢れる出来事の中で果たして学校には見極める力と対応力があるのか、また、大人たちがどの段階で何ができたのかを話されました。

その上で、思春期・青年期の「出会い」の良し悪しが子どもの進路に大きく影響すること、子どもの自己正当化にしっかりと向き合い、いじめ・非行を子どもの成長・発達に結び付けるのは、大人（環境）の力であるということを改めて教えていただきました。



教職員の健康管理体制

健康診断・任意検診

平成23年度より夏期休暇中に実施をしている健康診断を本年度も8月2日（火）、3日（水）、4日（木）の3日間で開催しました。検査項目については学校保健法、結核予防法、労働安全衛生法などで定められた項目を遵守し、教職員約200名が受診しました。また、前立腺がん検診、腹部エコー検診、乳がん検診（マンモグラフィ）といった任意検診も希望者は同時に受診しました。検査結果は個人に直接通知され、教職員の健康管理に役立てると共に、この結果をもとに高田学苑の産業医である岩崎病院に健康管理に役立つ適切な指導・助言を行っていただいております。



ストレスチェック

教職員のメンタルヘルス不調を未然に防止する目的からストレスチェックが法制化されたことを受け、本学苑でも7月11日（月）より一ヶ月間、ストレスチェックをウェブ上で実施しました。結果は産業医の先生にデータで送られ、必要に応じて面接指導の案内を行うなど、教職員自身のストレスへの気づきを促していきます。

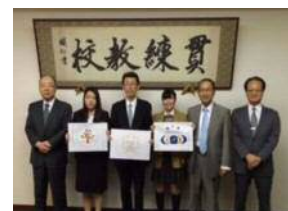
インフルエンザ予防接種

本年度より、毎年猛威をふるうインフルエンザ対策として、三重県健康管理事業センターに来ていただき、学苑内にて予防接種を実施することになりました。なお、予防接種の費用は学苑が一部負担し、114名が接種しました。

高田学苑ロゴマークの決定

本学苑は三重県下で最も歴史のある学校法人ですが、これまで学苑のシンボルマークはありませんでした。そこで、学苑のシンボルとなるロゴマークを公募いたしました。応募総数99作品の中から、ロゴマーク選定委員会による審査の結果、最優秀賞（採用作品）1点、優秀賞2点が決まりました。最優秀賞には高田高等学校所属の濱口高明教諭の作品が選ばれ、表彰式が行われました。

このロゴマークは、お釈迦様とその木の下で悟りをひらかれたとされる菩提樹をイメージし、4本の線は建学の精神・教育の理念・教育の目的・教育の目標を表しています。ロゴマークは学校案内、ポスターなど各種制作物に広く活用していきます。



教職員の表彰

特別表彰	11月4日（金）
中・高等学校	1名

永年勤続表彰		
短期大学	11月14日（月）	計 4名
25年勤続	1名	
20年勤続	2名	
10年勤続	1名	
中・高等学校	11月 4日（金）	計19名
40年勤続	1名	
35年勤続	2名	
30年勤続	3名	
25年勤続	1名	
20年勤続	3名	
15年勤続	4名	
10年勤続	5名	

教職員の異動状況

平成28年度に採用・退職された教職員は以下のとおりです。

		採 用			退 職	
		新規採用	再雇用	任用替	再雇用	完全退職
短期大学	教授		2		1	1
	准教授		1			1
	助教	1			1	
	本務職員	1			1	
	特任講師	2				1
	特任助教	1				
	嘱託職員	2				
	非常勤職員	1				
中・高等学校	教諭	2	3	2	3	
	本務職員					1
	A L T	1				
	講師		3			
	講師嘱託	4				
	嘱託職員	2	1			
	非常勤講師	2				4
	非常勤職員	2				

給付型奨学金・授業料等減免（助成）・短期大学入学金免除制度

高田学苑では、保護者や学生の経済的な負担を軽減する目的から、各種奨学金・授業料等減免制度を設けています。なお、これらの奨学金は給付型であり、すべて返済不要となっています。

短期大学

高田短期大学奨学金	
対 象	子ども学科およびキャリア育成学科オフィスワークコース学生
目 的	建学の精神に照らし、経済的に学業の継続が困難と判断され、学業・人物に優れた学生に対して奨学金を給付し、学業奨励を支援する
決定者	18名（子ども学科15名、オフィスワークコース3名）
奨学金額	3,600,000円（一人あたり年額20万円給付）
高田短期大学介護福祉士就労予定者奨学金	
対 象	キャリア育成学科介護福祉コース学生
目 的	建学の精神に照らし、特に学業・人物に優れた学生で卒業後介護施設に就職する予定であるすべての学生(外国人留学生を除く)を支援する
決定者	34名（1年生18名、2年生16名）
奨学金額	6,200,000円（一人あたり年額20万円給付）

高田短期大学私費外国人留学生授業料等減免措置

対 象	高田短期大学に在学する私費外国人留学生
目 的	授業料・施設設備整備費・教育充実費等の経済的負担を減免する
決定者	12名(全額免除1名、減免11名(減免率50%))
減免金額	4,005,000円

高等学校

高田高等学校授業料等生徒納付金助成

対 象	高田高等学校に在籍する生徒の保護者				
目 的	授業料等生徒納付金を無償化または減額し、保護者の経済的負担の軽減を図る				
決定者		I・4年	II・5年	III・6年	合 計
	授業料等生徒納付金が無償となる世帯	32	34	37	103
	授業料等生徒納付金が減額となる世帯	29	29	41	99
	合 計	61	63	78	202
助成金額	11,997,500円				

授業料等生徒納付金とは授業料と教育充実費の合計をいいます。なお、無償または減額となる基準は、高等学校等就学支援金の基準(保護者の所得状況)に準じます。

また、高田高等学校を卒業し高田短期大学に入学する場合、入学金(28万円)が免除される入学金免除制度もあります。過去3ヶ年の高田高等学校からの進学者数は以下のとおりです。

	26年度入学	27年度入学	28年度入学
人 数	35	39	37

高田学苑 クラブチーム事業報告

みえ高田FC活動報告

2016年4月より県内の中学生15名にて活動をスタートしました。5月にはチーム立ち上げ約一ヶ月で初めての公式戦(U-15)に臨み、見事初戦で勝利をおさめました。残念ながら三重県予選の2大会では東海大会の切符を手にする事は出来ませんでした。その悔しさをバネにトレーニングに励み、年間を通じて行われている県リーグでは高校生や成人のチーム相手に互角の試合が出来るほど成長しました。結果5位という成績で終えることとなり、2017年度からは2部制となる県リーグ2部で戦っていきます。

また、メンバーはサッカー選手として成長しただけでなく、団体行動やチーム関係者との交流を通じ、人としての成長が顕著に見られました。県内各地から多くの時間と費用を費やし、多くの人に支えられながらサッカーが出来ていることを自覚し、日々の取り組みにとっても生かされていると感じています。今後もさらなる高みを目指し、チーム一丸となって活動していきます。



平成28年度 みえ高田FC公式戦結果

● 第21回全日本女子ユース（U-15）サッカー選手権大会 三重県予選

1回戦	鈴鹿グローリィ	○	3-1
準決勝	伊賀FCくノーサテライト	●	0-2

● 第38回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会三重県予選

1回戦	FCミナス	●	0-3
-----	-------	---	-----

● 2016年度三重県女子サッカーリーグ（6月～12月）

全11チーム中 5位 （ 6勝1分3敗 ）

津田学園高校	○	8-0
鈴鹿グローリィ	○	3-2
高田短期大学女子サッカー部	○	3-0
伊勢FCPuro	○	3-1
四日市南高校	○	6-0
四日市西高校	○	1-0
ヴィアティン三重レディース	●	0-1
FCミナス	△	0-0
楠クラブレディース	●	0-5
三重高校	●	2-7



伊賀FCくノーとの連携協定

昨年度に発足し現在活動中の高田短期大学女子サッカー部・みえ高田FCですが、4月5日(火)、学校法人高田学苑と特定非営利活動法人伊賀FCくノーが連携協定を締結しました。この協定は、サッカー競技を通じて女性が輝く社会の実現のため、サッカー競技の普及・振興、交流、競技力の向上などの分野において相互に協力し、新局面へと取り組むものです。

調印式では本学苑高臣文祥理事長と特定非営利活動法人伊賀FCくノー 吉森茂雄理事長が協定書に署名し、下記の内容で調印が行われました。

【連携の主な内容】

- (1) 女性が輝く社会貢献活動に関すること。
- (2) 教育・研究・文化・スポーツ振興・発展に関すること。
- (3) サッカー競技力向上に関すること。
- (4) 三重県の次世代を担う、子どもや青少年の人材育成に関すること。
- (5) 相互のチームへの受け入れに関すること。
- (6) 相互の指導者及び選手の交流に関すること。
- (7) 相互の選手の進学支援に関すること。
- (8) その他、目的達成のため互いが必要と認めること。



みえ高田VC sala の発足

平成28年4月より本格的に強化し、秋津修監督指導のもと東海大学女子チャレンジリーグで1部昇格を果たすなど目覚ましい活躍をみせる高田短期大学女子バレーボール部ですが、その活動を背景に、県内初の社会人バレーボールチーム「みえ高田VC sala」を発足し、平成29年1月20日（金）、本学苑において発足記者会見を開きました。2021年の三重とこわか国体への出場を視野に入れ、大学卒業後も活躍できる社会人選手を育成すると共に県内の女子バレーボールの更なる発展を目指していきます。



教育活動の実績 —高田短期大学—

時代・社会の変化に即応した取り組み

1 学士力向上を目指した教育課程の展開

(1) 共通教養科目の充実に向けて

「ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）」の「共通到達目標」に対応するため、今年度より両学科に共通する「共通教養科目」として12科目を配置しました。また、初年次教育の一環として「スタートアップゼミナール」を1年前期に開設しました。基本的なアカデミックスキルを身につけるとともに、能動的な学修態度の育成に一石を投じることができました。さらに、学修成果の可視化を図るため「ルーブリック評価」の導入を進めています。

(2) 学則の変更

学生の総学修時間の確保等を目的として、キャリア育成学科オフィスワークコースの卒業に必要な単位数を、平成29年度入学生から現行の64単位から70単位へ引き上げました。

(3) カリキュラムマップの見直し

2年前より、本学は、教育改善の一環として「ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）」（DP）を見直し、「到達目標（学修成果）」がDPのどの項目を達成するかを明示するため、すべての科目をカリキュラムマップ化しました。これによって、『シラバス』だけではわかりにくかった「科目の到達目標」とDPとの整合性、科目間の関係及び結びつきが可視化できるようになりました。今年度で全学年のカリキュラムマップが揃いましたが、今後はより一層カリキュラム全体を捉えやすくするために検証を行い、更新を図ります。

(4) IRの充実

現在、教育活動及びその成果の検証を行っていますが、学修成果を確認するためのアセスメント（卒業生調査・就職先調査）実施に向け、平成29年度からIR組織をより強固な組織へと改組しました。

2 主体性・協調性を育む短大生活支援

(1) 新入生宿泊研修

2年間の短大生活を有意義に過ごすため、新入生オリエンテーション行事の締めくくりとして、宿泊研修を実施しました。高短大生として自立心や協調性を養うとともに、学生・教員相互の理解と親睦を深める研修目的に沿って、楽しく和やかに取り組むことができました。

日 時 4月22日（金）～4月23日（土） 1泊2日

会 場 COCOPA RESORT CLUB 白山ヴィレッジゴルフコース（津市白山町川口6262）

参加者 1年生及び教員全員、関係職員

研修内容 学長講話、子ども学科「すてきな保育者になるために」等、キャリア育成学科「グループワーク（先生にインタビュー）」、レクリエーション、バターゴルフ等





(2) 学生自治会主催イベント

本学伝統の自治会活動では、2年生の執行部役員に加え、1年生から学生自治会サポートメンバーを募り、「異学年共同コミュニティ」の形成を図っています。自治会活動を教職員が支え、年間を通して種々の行事を企画実施しています。

① 学生生活相談会

日時 4月6日(水)～4月12日(火)

場所 2号館1Fロビー前

内容 新年度開始直後の1週間に自治会執行部役員によるブースを設け、科目履修、部活動、アルバイト、就職活動等について新入生の相談に応じました。

② TJC祭(スポーツ大会)

日時 5月14日(土) 12:00～16:00

場所 本学体育館

内容 新入生歓迎および学生の親睦を深めるため、例年冬(1月)に行なっていたスポーツ大会をこの時期に変更して開催しました。スポーツを行なうには最適な時期で約130名の学生が集まり、自治会役員や教職員とともに競技に参加しました。



③ ランチタイムコンサート

日 時 ①7月18日(月) 昼休み ②1月27日(金) 昼休み
場 所 本学カフェテリア内特設ステージ
内 容 吹奏楽部による演奏が行われました。

④ 第51回高短祭

日 時 10月22日(土)・23日(日)
内 容 今年度は天候が不順で雨の日が多かったので、天気は当日まで心配しました。幸い大学祭の2日間は好天に恵まれ、一般来場者数は初日約800人、2日目は1000人以上の来場があり、各イベントも大いに盛り上がりました。



⑤ TJCしんねんかい(新年会)

日 時 1月14日(土)
内 容 今年度より、冬のTJC祭に代わるイベントとして新たな企画として開催しました。参加学生数は約100名で、餅つきや各種ゲームを行い、親睦を深めました。



(3) 生活講座

日時 7月4日(月) 14:40～16:10

場所 本学1号館4階 講堂

参加者 317名

内容 テーマ① 「自分を大切にすって、どういうこと？」

講師 本学 富永保健室担当

本学 橋本准教授

テーマ② 「安全な学生生活を送るために」

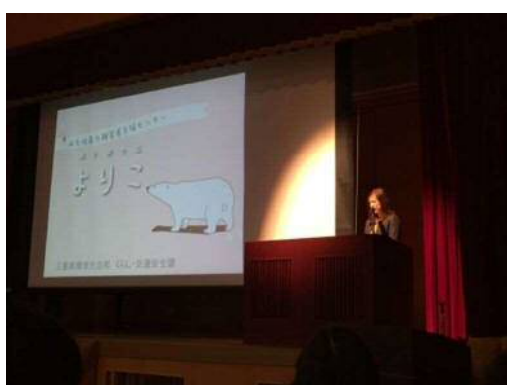
講師 三重県津警察署 生活安全課

警部補 南部尚之 様

テーマ③ 「“みえ性暴力被害者支援センター よりこ” にできること」

講師 三重県環境生活部 くらし・交通安全課くらし安全班

主査 野村えみ子 様



3 キャリア教育・キャリア支援の充実

(1) キャリア教育の推進

各学科・コースの特色に応じて、教養科目・専門科目の各授業と進路ガイダンス、プレ就職講座、就職講座を関連づけ、キャリア教育を推進しました。

○28年度入学生（1年生）

子ども学科	進路ガイダンス	3回実施	就職講座	6回実施
キャリア育成学科				
オフィスワークコース	プレ就職講座	2回実施	就職講座	4回実施
介護福祉コース	プレ就職講座	1回実施	就職講座	4回実施

○27年度入学生（2年生）

子ども学科	就職講座	7回実施
キャリア育成学科		
オフィスワークコース	就職講座	6回実施
介護福祉コース	就職講座	5回実施

※公務員試験・教養試験対策講座受講者数（外部講師）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
1年生	85人	87人	94人	85人	79人
2年生	45人	26人	37人	47人	50人

27年度入学生（2年生）は、3月9日から8月23日まで18回実施

28年度入学生（1年生）は、9月6日から12月13日まで15回実施

- ※ 公務員試験・保育専門対策講座受講者数（外部講師）
子ども学科2年生 51名（5月7日から8月22日まで10回実施）
- ※ 公務員試験合格者数（平成29年3月31日現在）
子ども学科2年生11名（市町保育士・幼稚園教諭）、c f. 卒業生17名合格（把握分）
オフィスワークコース1名（三重県警察事務職員）

（2）求人開拓の取組と学生への支援



キャリア支援センターに配置されたキャリアカウンセラー1名、キャリアサポーター4名及び教学部長も含め総勢8名の職員が、進路相談をはじめきめ細かく就職活動を支援しています。

（3）早期離職防止対策と卒業生への支援

離職したり仕事上の悩みなどで相談に来る卒業生に対して、卒業後も継続して支援を行っています。また、卒業前の2年生全員に就職直前講座を行うなど、早期離職防止の対策を実施しています。

（4）「キャリアカルテ」の活用による協働型キャリア支援の推進

就職支援システム「キャリアカルテ」を核とした学内ネットワーク「高短キャンパスネット」の積極的な活用を進め、学生、教員及び職員間での情報共有及び意思疎通等を図っています。

4 学生募集と高大交流事業

（1）高大教育交流事業

今年度の交流事業の実施内容は、下記のとおりです（9月30日までの実施結果、協定校13校および高田高等学校での実績）。

①出張ガイダンス

（※協定校へ出向いて学校ガイダンスを行う）

月日	曜	時間	高校名	出席者	形式	対象	参加者
5月7日	土	13:30～ 14:30	久居高校	梶間	学校別説明会	2・3年	26
		14:45～ 15:45				保護者	20
5月11日	水	13:05～ 13:50	白子高校	増亦	分野別説明会（幼児教育・保育）	3年	12

6月1日	水	12:50~ 16:15	いなべ総合 学園高校	千草	職業別説明会（幼児教育・保育）	全学年	56
				海住	職業別説明会（経理・事務）	全学年	30
				増亦	学校別説明会	全学年	6
6月3日	金	15:30~ 17:00	高田高校	増亦 藤澤	高短なんでも相談	3年	9
6月4日	土	11:00~ 12:00	高田高校	鷲尾	学校説明会	3年	12
6月6日	月	14:10~ 15:15	四日市四 郷高校	増亦 藤澤	学校説明会 AO入試に関する説明会	3年	11
6月29日	水	10:55~ 12:45	明野高校	増亦	学校別説明会	3年	14
7月1日	金	11:15~ 13:05	高田高校	岡田 増亦	学校別説明会	2年	66
7月7日	木	14:10~ 15:00	宇治山田 商業高校	増亦	進路・入試説明会	3年	9
7月8日	金	15:30~ 17:00	高田高校	増亦 藤澤	高短なんでも相談		2
7月12日	火	13:15~ 15:05	四日市西 高校	増亦	学校別説明会	2年	45
7月14日	木	13:00~ 16:15	亀山高校	増亦	入試説明会	3年	29
7月14日	木	10:00~ 14:00	津商業 高校	藤澤	学校別説明会	全学年	7
7月19日	火	9:30~ 16:30	四日市四 郷高校	増亦	学校別説明会	全学年	1
8月20日	土	9:10~ 13:10	高田高校	鷲尾	高田高校オープンスクール 高短ブース開設		
9月2日	金	14:05~ 15:50	いなべ総合 学園高校	梶間	学校別説明会	2年	7
9月12日	月	15:30~ 17:00	高田高校	藤澤	高短なんでも相談		
9月28日	水	13:20~ 14:50	いなべ総合 学園高校	野呂 増亦	分野別進路説明会	1年	102
10月26日	水	14:45~ 15:35	松阪商業 高校	増亦 竹内	職業別（一般事務）説明会	1年	36
11月2日	水	14:10~ 15:35	松阪商業 高校	増亦 竹内	進路別（ショップ・販売） （保育・幼児教育）説明会	2年	16
11月9日	水	14:05~ 15:10	亀山高校	増亦	進路別説明会	2年	31
11月30日	水	11:25~ 12:45	明野高校	梶間	進路別説明会	1年	14

12月9日	金	12:30~ 15:10	四日市商業高校	梶間	進路別説明会	2年	14
12月14日	水	13:15~ 14:05	明野高校	竹内	進路別（保育・幼児教育）説明会	1・2年	16
12月15日	木	14:00~ 15:10	久居高校	増亦	進路別説明会	2年	23
12月15日	木	10:55~ 12:45	飯野高校	梶間	進路別説明会	1年	10
12月15日	木	10:30~ 11:35	松阪商業高校	増亦	進路別説明会	1年	16
1月11日	水	11:30~ 12:45	明野高校	増亦	進路別説明会	2年	6
1月25日	水	14:15~ 15:15	四日市四郷高校	増亦 生桑	進路別説明会	1年	21
2月16日	木	13:30~ 15:35	白子高校	北川 加藤	進路別説明会	1・2年	45
2月20日	月	12:50~ 13:50	四日市商業高校	竹内	進路別説明会	1年	15
2月21日	火	12:50~ 13:50	四日市商業高校	海住 徳山	進路別説明会	1年	29
3月7日	火	10:45~ 12:25	松阪商業高校	増亦	進路説明会	2年	9
3月15日	水	11:10~ 12:20	亀山高校	藤澤	進路別説明会	2年	17

② 出前（模擬）授業

（※協定校へ出向いて出前（模擬）授業を行う）

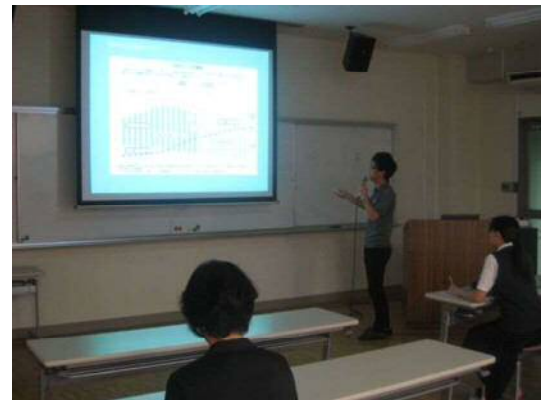
月日	曜	時間	高校名	担当	形式・内容	対象	参加者
4月27日	木	13:25~ 14:15	白子高校	野呂	「敬語の基本講座」	全学年	39
6月15日	水	15:45~ 17:00	相可高校	水野	「幼児教育に関する講義」	全学年	31
9月8日	木	8:50~ 10:40	四日市西高校	鷲見	「子どもの育ちと食」	3年	15
9月13日	火	13:45~ 15:15	相可高校	柳瀬	「子どものからだ育てと運動遊び」	3年	13
9月28日	水	13:25~ 14:15	白子高校	杉浦	「職業意識の形成とビジネス マナーの基本」	3年	308
10月3日	月	10:55~ 12:45	亀山高校	長倉	「乳児の特徴と援助」	3年	22

11月2日	水	14:45~ 15:35	白子高校	鷲尾	「オフィスで働くための経理・事務」	1年	11
11月9日	水	13:00~ 14:30	四日市四 郷高校	杉浦	「新しく社会人となるために必要な 知識・スキル」	3年	273
11月9日	水	13:50~ 15:30	相可高校	鷲尾 武藤	「オフィスで働くために身につけた い能力」 「児童虐待と社会福祉」	1年	16
11月11日	金	11:00~ 12:00	亀山高校	福田	「高齢者とのコミュニケーション」	2年	7
12月15日	木	15:00~ 16:30	宇治山田 商業高校	徳山	「介護福祉」	1・2年	2
12月16日	金	15:00~ 16:30	宇治山田 商業高校	寶來	「保育者の専門性」	1・2年	2
1月18日	水	13:25~ 14:15	亀山高校	鷲尾	「オフィスで働くために身につけた い能力」	2年	8
1月18日	水	8:55~ 9:45	津商業高校	岡田	「ケースで学ぶ職場の人間関係」	3年	276
1月19日	木	15:15~ 16:15	飯野高校	杉浦	「就職予定者研修会」	3年	30
2月1日	水	13:25~ 14:45	飯野高校	川喜田	「サービス・接遇の基礎」	1年	2
2月23日	木	13:40~ 14:30	明野高校	福西	「子どもの育ちと音楽表現」	2年	40
3月13日	月	11:15~ 12:00	相可高校	野崎	「ビジネスマナー講座」	2年	235

③ 特別講座・授業見学・施設見学など
(本学の講義に出席、本学の施設・設備見学)

月日	曜	時間	高校名	形式・内容	対象	参加者
5月21日	土	13:30~ 15:10	高田高校	子ども学科 「子どもの育ちと音楽表現」 (福西)	2・3年	31
				オフィスワークコース 「進学・面接時のポイント」(杉浦)		4
				「介護福祉コース「介護の仕事と魅力」 (中川)		1
6月14日	火	13:45~ 15:25	相可高校	授業見学 特別授業(福西・杉浦・中川)	3年	18

7月20日	水	10:30～ 11:55 13:00～ 13:55	四日市四郷 高校	授業見学 「音楽表現指導法」(福西) 「ビジネス情報演習」(川喜田)	全学年	8
7月26日	火	10:45～ 14:40	白子高校	進路ガイダンス(増亦) 特別講座① 「子ども学科で学ぶにあたって」 (柳瀬) 特別講座② 「保育者に求められるもの」(稲田) 特別講座③ 「乳児の特徴と援助」(長倉) 特別講座④ 「介護の仕事と魅力」(中川)	2年	13 13 13 1
12月22日	木	13:00～ 14:30	高田高校	特別講座① 「幼児期の遊び」 特別講座② 「パワーポイントでポスター作り」 特別講座③ 「介護の仕事と介護の魅力」	1・2年	30 15 2



(2) 高大教育交流連絡協議会

今年度は、以下のとおり協議会を実施しました。

第1回 平成28年6月10日(金) 15:00～16:30

実施内容 1) 平成29年度入試、
2) 教育交流事業報告 等

第2回 平成28年10月11日(火) 15:00～17:00

実施内容 1) 平成29年度AO入試結果と情報公開
2) 高校進路指導室から見た高田短大の強みと弱み 等

第3回 平成29年2月3日(金) 15:00～17:00

実施内容 1) 学生の主体的な学びをいかに喚起するか
アクティブラーニングの現状と実践例
2) 平成30年度入試について 等



(3) 高田高等学校との意見交換会

5月17日(火)、同学苑の高田高等学校の3年生担任および進路指導関係教員15名に来学いただき、会食ならびに意見交換、質疑応答を行いました。



(4) オープンキャンパス実施結果

①日時

第1回 平成28年6月18日(土) 13:00～16:45

第2回 平成28年7月17日(日) 13:00～16:45

②参加者数

	第1回 (6 / 18)	第2回 (7 / 17)	合計
子ども学科	145名	167名	312名
キャリア育成学科 オフィスワークコース	43名	62名	105名
キャリア育成学科 介護福祉コース	5名	9名 留学生1名	15名
計	218名	239名	432名

③実施スケジュール

13:00～13:25 全体説明会

13:30～16:45 各学科・コース説明・体験・相談



(5) 進学セミナーの実施結果

①日時

平成28年7月2日(土) 13:00～15:00

②参加者数

子ども学科	10名
キャリア育成学科 オフィスワークコース	3名
キャリア育成学科 介護福祉コース	1
計	14名

③実施スケジュール

子ども学科（会場：121教室）

- 13:00～15:00 個別・グループ別相談、随時学内見学

キャリア育成学科オフィスワークコース（会場：第6演習室）

- 13:00～15:00 個別相談、随時学内見学

キャリア育成学科介護福祉コース（会場：介護実習棟）

- 13:00～15:00 個別相談、随時学内見学



(6) 高短フェア実施結果

①日時

平成29年3月5日（日） 13:00～16:00

②参加者数

95名



地域への社会貢献事業

高田短期大学公開講座

「健康寿命を延ばして、元気に過ごしましょう —日常生活で無理のない認知症予防と転倒予防—」			
日時	7月3日(日)	場所	介護実習室
参加者	11名	受講料	無料
講師	キャリア育成学科 准教授 福田洋子		
内容	超高齢社会における健康寿命の重要性、健康寿命を延ばすためのポイントについて聴講していただいた後、テレビを見ながらでもできる肺炎・認知症予防体操、呼吸法や手話もつけた歌唱練習等の気軽にできる健康法を体験していただきました。		
「持続可能な英語学習のすすめかた」			
日時	7月24日(日)	場所	大講義室
参加者	33名	受講料	無料
講師	キャリア育成学科 教授 畠山義啓		
内容	最新の機器やアプリを使った英語学習を紹介し、学校現場での英語学習の方法などを織り交ぜつつ、IT技術の発達によって、以前より英語の持続学習がしやすい環境となっていることを聴講していただきました。		
「手づくり楽器を作ろう&みんなでアンサンブル」			
日時	7月30日(土)	場所	育児文化室
参加者	33名	受講料	500円(材料費)
講師	子ども学科 准教授 山本敦子		
内容	手づくり楽器についての解説と製作する楽器の紹介をした後、実際に制作を体験していただきました。講座の最後には完成した楽器を使って全員でアンサンブルをしました。		
「デジカメ写真の管理と活用」			
日時	9月3日(土)	場所	PC教室I
参加者	35名	受講料	無料
講師	キャリア育成学科 教授 鷺尾 敦		
内容	Windowsのファイル管理についての基本的な考え方や操作方法の説明の後、「フォトギャラリー」を使った写真の管理方法や補正の方法、フォトタッチソフトやフォトムービーを使った写真データの活用方法等を実際に操作しながら学んでいただきました。		



教員免許状更新講習

昨年度に続き文部科学省の認可を受け、主に幼稚園教諭のための免許状更新講習を開催しました。また、平成30年度教員免許状更新講習該当者が現在より1.7倍となるため、それに係る講習内容、教員配置、受入れ体制の見直しを行い、県下の他大学との連携を図りました。

Mie保育士人材バンク「takada-jc」

県内の保育士養成校の卒業生を中心に保育士資格等を有していながら現在保育士として就業していない潜在保育士に対して、研修を提供しスキルアップを図り、子どもの視点に立った保育人材を育成し、再就職を支援する人材バンクです。

また、保育士資格を有し、現在働いている方へ保育指針を踏まえたスキルアップの場を提供しています。今年度も教員免許状更新講習会等に合わせ、登録された保育士等に次の研修会を実施しました。



11月 6日(日)	講座①	現代の保育者に求められる専門性 講師：子ども学科 准教授 青木信子 参加者数：2名	参加費 無料 定員 各講座とも 30名程度
11月13日(日)	講座②	子どもの健康管理 講師：子ども学科 准教授 長倉里加 参加者数：6名	
11月20日(日)	講座③	子どもの造形活動 講師：子ども学科 講師 林 韓燮 参加者数：2名	

みえアカデミックセミナー2016

三重県内にある全ての大学・短期大学・高等専門学校が有する学びと県民をつなぐ一大連携事業で各校の特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーに参画しています。

日時	7月29日(金) 13:30~15:15
会場	三重県総合文化会館1F レセプションルーム
テーマ	「地域資源を活用した地域活性化」 本学講演講師 キャリア育成学科 教授 杉浦礼子、助教 岡田一範



地域活性化を目的とする街づくりについて、研究成果をもとに地域資源を活用し「人・もの・お金」を結びつけた経済的尺度・社会的尺度の視点から講演を行いました。

また、地域ブランド「一身田印」プロジェクトの解説では参加された方が熱心にメモを取り、興味深く傾く姿も見受けられました。



子ども学科

家庭教育支援コーディネーター養成講座

津市との共催で実施。地域での子育てや家庭教育を支援するコーディネーターを養成する講座で、本年度からは「基礎コース」「実践コース」の区別をなくして、全10回の講座を実施しました。

	日程	テーマ	講師
第1回	6月 3日	「子どもの発達を考える」	千草篤磨教授
第2回	6月10日	「子どもの障害を考える」	千草篤磨教授
第3回	6月17日	「子どもの育ちと音楽①ー歌・歌あそび編ー」	福西朋子教授
第4回	6月24日	「子どもの育ちと音楽②ー音・楽器あそび編ー」	山本敦子准教授
第5回	7月 8日	「子どものからだ育てと運動遊び ー子どものからだ育ちの現状と課題ー」	柳瀬慶子准教授

第6回	7月15日	「子どものからだ育てと運動遊び ー子どものからだを育む運動遊びプログラムー」	柳瀬慶子准教授
第7回	7月22日	「社会福祉と貧困問題」	武藤敦士助教
第8回	7月29日	「DV、児童虐待を貧困問題から考える」	武藤敦士助教
第9回	8月5日	「食と子育て①ー子どもの育ちと食ー」	鷺見裕子教授
第10回	8月12日	「食と子育て②ー食べる力を育むー」	鷺見裕子教授
場 所	津市中央公民館		

F D 研修会

日 時	9月26日(月) 16:00~17:30	場 所	第4会議室
テーマ	「養成校における実習指導について考える」		
講 師	福西朋子(子ども学科教授) 青木信子(子ども学科准教授)		
内 容	12月に伊勢市で開催される平成28年度全国保育士養成協議会中部ブロックセミナーにおいて、本学科は第2分科会(「保育実習指導の原点を考える」)の企画運営を担当します。そこで提案する研究内容の中間報告を行い、学科教員全体の共通認識としました。		

全国保育士養成協議会中部ブロックセミナー

12月9日(金)~10日(土)、伊勢市観光文化会館にて、全国保育士養成協議会中部ブロックセミナーが開催されました。本学子ども学科は「保育実習」についての分科会を担当しました。学長及び子ども学科教員全員が出席し、三重県私立保育連盟、三重県児童養護施設協議会の協力を得て、意義ある分科会となりました。



「ゼミナールII」成果報告会

2月1日(水)にゼミナール成果報告会が実施されました。成果報告会は、2年間のゼミナールで個人またはグループで行った研究成果を学科全体で発表することでした。報告会の運営は各ゼミから2名ずつの実行委員を選出し、18名の実行委員によって行われました。発表のテーマは、子どもの食をはじめ、劇遊びの企画実践、子育て支援など様々でした。2年生は報告会を通し、これまでの学びを整理することとともに新たな学びを見つけ出すこともでき、有意義な時間になったと思います。



キャリア育成学科 全体

平成28年度第2回学科FD

平成29年2月20日(月)、図書館グループワークエリアにおいて、キャリア育成学科FD (Faculty Development) 研修会を実施しました。テーマは「留学生の現状」、講師は、名古屋SKY日本語学校の教務主任梶川克哉先生です。近年、日本の専門学校や短大・大学などの高等教育機関に入学している留学生の意識や現状について、自らの指導経験をもとに講義いただいた。

キャリア育成学科 オフィスワークコース

スキルアワード

学生の資格取得を応援するため、資格取得に努力し、良い成績をあげた学生を各学年で学期ごとに表彰しています。資格レベルによって「★」の数を設定し、合格した資格に応じた「★」の数を集計し、「★」の数をたくさん取得した学生に優秀賞を、特に難しい検定に合格した学生に特別賞を与えています。また、オフィスワーカーとして必要な能力を身につけたことを証明するコース認定制度を設け、指定した複数種類の検定に合格した学生を、「オフィスマスター」として認定しています。また、オフィスマスターをベースに特定分野の難しい資格を取得した学生を「オフィススペシャリスト【各分野】」として特定分野に強いオフィスワーカーとして認定しています。



現2年生表彰者

平成28年度後期の表彰 (卒業生)	平成29年3月17日(金)、コースミニ卒業式において、平成28年度後期(2年生後期)の資格取得実績をもとに、スキルアワード表彰式を行いました。特別賞(医療事務管理士、介護事務管理士、証券外務員資格取得者、3名)、オフィスマスター(1名)、オフィススペシャリスト(医療・介護各1名)の学生を認定し表彰しました。
平成28年度後期表彰 (現2年生)	平成29年4月10日(月)ゼミナールIIの時間に、平成28年度後期の資格取得状況をもとにスキルアワード表彰式を行いました。優秀賞15名、オフィスマスター29名、オフィススペシャリスト(事務)3名を表彰しました。

平成28年度 オフィスワークコースFD

平成28年12月26日(火)、図書館グループワークエリアにおいて、オフィスワークコースFD (Faculty Development) 研修会を実施しました。テーマは「Google フォームの活用」、講師は、鷲尾教授です。ミニツッペーパーや小テストにおける活用方法や、様々なアンケートの制作方法、結果の参照方法などを体験的に学習しました。



FD研修の様子

高短フェア (ミニオープンキャンパス)

本年度で第5回目となる「高短フェア」(平成29年3月11日(土))においてオフィスワークコースとして参加しました。全体会では学科長が「就職の高短オフィス!」の魅力についてプレゼンテーションを行った。その後、高校生が学内を巡りながら体験するオフィスワークコースのコーナーでは「オフィスワークコースで学ぶこと」についてクイズ形式で学修内容をイメージしてもらうコーナーを企画しました。

社会体験実習反省会

夏期休業中の約10日間にわたる「社会体験実習」に68名（前年比20名増）の学生が官公庁・公民館・自動車販売店・ホテル・百貨店などの23法人27実習先に分かれて実習体験しました。実習を終えた平成28年9月28日(水)には、社会体験実習で一人ひとりが学んだこと、実習内容、今後の課題などパワーポイントを用いて5分間で報告し、また発表内容を学生同士が相互評価をする「社会体験実習報告会」を実施しました。10月7日(金)には本学で社会体験実習反省会を実施し、14事業所より16名の方にもご出席いただきました。反省会では本年度より導入したルーブリック評価についてもご意見を賜るなど有意義な反省会となりました。

大学祭ゼミ展示

高短祭において、オフィスワークコースの各ゼミナール単位で学修した成果をポスターや映像で展示・発表をしました。28年度からスタートしたばかりの「スタートアップゼミナール」で何をやるか学生間で協議し、夏休みに準備を進めました。



ゼミ展示の様子

保護者懇談会

平成29年2月5日(日)全体会の後、オフィスワークコース懇談会はカフェテリア西で開催しました。学科・コースの教育についての説明の及、進路指導就職活動について説明をし、その後各ゼミに分かれグループ懇談を行いました。オフィスワークコースでは、34名の保護者の参加がありました。



卒研発表会の様子

合格者入学前課題研修(中間出校日)

平成29年2月14日(火)、AO入試、指定校推薦入試、推薦入試、一般入試1期までの合格者対象に、入学前の不安を無くすこと、入学前課題の一つ「新聞スクラップブック作成」の状況を把握すること、入学前課題の一つとなる「タイピング練習」の方法を伝えることを目的に、入学前の中間出校日を設けました。内容は、不安解消のためのふれあいゲームとタイピングの練習方法です。53名が参加してくれました。

春季就職特別講座

2月14日(火)、3月1日(水)の2回にわたり開催しました。

第1回 2月14日(火)	<ul style="list-style-type: none">▪メイクアップ講座▪講演 面接で失敗しないためのビジネスマナー (Will Staff 長谷川先生)▪グループディスカッション (UNICO)▪これからの就職活動
第2回 3月1日(水)	<ul style="list-style-type: none">▪先輩の就職活動体験談 (中北薬品、JA 松阪)▪エントリーシートの書き方と注意点 「文章でどうプレゼンするか? エントリーシートの書き方」(DVD) エントリーシートの注意点▪講演 企業研究の進め方 エントリーしてみよう (マイナビ 大上様)▪模擬面接 (1分間自己PR) / 企業研究

卒業研究レポート発表会

平成28年2月2日（木）、2年間の短大での学びの締めくくりとなる卒業研究レポート発表会を開催しました。卒業研究レポートは、ゼミナール教員の指導のもと、独自のテーマを設定し、調査や分析を行った成果をまとめた発表会では、各ゼミナールから代表として選ばれた6名がプレゼンテーションを行いました。最後に学長より総評をいただきました。



卒研発表会の様子

1. 「日本小売業の盛衰 ～百貨店の発展と衰退～」

久保井 麻帆（岡田ゼミ）

2. 「女性の働きやすい社会の実現を目指して ～男女間格差解消の環境作り～」

棚橋 菜由（海住ゼミ）

3. 「高田短期大学におけるプロモーション戦略」

喜多村 莉帆（杉浦ゼミ）

4. 「誤翻訳されやすい日本語表現」

足立 紗耶（野呂ゼミ）

5. 「英語の歴史」

中下 美香（畠山ゼミ）

6. 「AIは人類に「光」をもたらすか「闇」をもたらすか」

岡 菜々美（鷺尾ゼミ）

関連会議

エントリーシートの書き方と面接のマナー講座

本年度も、魅力的なエントリーシートの書き方や、受験時の面談・面接時でみられているポイントなどを理解してもらい、デザインしたキャリアの実現を支援するため受験を控えた高校生向けの講座を開講しました。対象は、短大に進学した後、三重県内の企業で働きたいと考えている高校3年生で、「エントリーシートの書き方」と「面接のマナー」の特別講座を実施しました。オフィスワークコースの杉浦教授が素敵な印象を面接官に与える面接のマナーのポイントを、野呂准教授が自分らしさを読み手に伝えるエントリーシートの書き方を指導しました。



講座の様子

「租税教室」勉強会を開催

オフィスワークコース1年生の6名が参加し、公益社団法人鈴鹿法人会、鈴鹿税務署指導のもと、10月4日（火）に第1回「租税教室」勉強会を開催。その後は月に1回程度の頻度で1月17日（火）までに計5回の勉強会を開催しました。

第1回目の勉強会は租税教室を意識して、そこに向けた授業の進め方の指導が行われ、第2回目以降は租税教室で展開する講義に向けて必要な租税（消費税中心）の知識、税金の使われ方、どのように役立っているのか、使い方の決定方法などについても参加学生は学習した。

その集大成として2月2日（木）、8日（水）、10日（金）に鈴鹿市立庄野小学校、清和小学校、神戸小学校で6年生を対象に租税教室を行いました。



「租税教室」の様子

キャリア育成学科 介護福祉コース

F D 研修会

日 時	9月21日(木) 16:00~18:00	場 所	介護福祉コース準備室
テーマ	「社会福祉法等改正について －社会福祉法人改革、介護福祉士国家資格取得方法の変更など－」		
講 師	介護福祉コース長 千草篤磨		
内 容	次年度より本格施行される社会福祉法の改正内容について研修を実施しました。高齢者施設や障害者施設のほとんどが社会福祉法人であることを踏まえ、改正点とその意味を確認しました。また、介護福祉士の国家資格取得方法の見直しや社会福祉施設職員等退職手当共済制度の見直しについてもコース教員の共通認識としました。		

「総合ゼミナールII」報告会

1月23日(月)に、2年生の「総合ゼミナールII」報告会が開催されました。テーマは「視覚障害者疑似体験を通しての気づき」「車椅子バスケットについて」「身近なトイレ福祉の視点からー」「刑務所と福祉」など、各学生が福祉に関連する様々な方向から関心を持ち自分なりに調べた内容について、パワーポイントを用いて紹介し発表しました。1年生から行ってきた報告会も3回目の体験となり、各々が決められた時間内に効果的に発表できる力についても成長を実感できた報告会となりました。



スミセイさわやか介護セミナー

2月26日(日)三重県総合文化会館大ホールで、スミセイさわやか介護セミナーが開催されました。本学介護福祉コースは、三重県介護福祉士養成施設協議会会員校としてセミナーを共催しました。午前には、本学非常勤講師の津幡佳代子先生によるレクリエーションの講座、午後は千草篤磨コース長がコーディネーターとなり介護福祉実践のシンポジウムを実施しました。シンポジストは高田短期大学卒業生など5人の介護福祉士で、介護の実際や施設で生活する高齢者や障害者の方のいきいきした様子が報告されました。



地域連携施設

仏教教育研究センター

研究会の開催

研究テーマ：「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」

高田派中興の祖である真慧上人のご遠忌を記念して、上人が著された『顕正流義鈔』の研究書を発刊することを目的に毎月1回研究会を開催しています。これまでに原文と現代語訳との対照を行い、語句説明を頭註、補註形態で行ってきました。現在は、補註の完成に向けて作業を進めています。

仏教教育研究センター公開講座（高田本山教学部 共催）

地域の方々に仏教に触れる機会をご提供することを目的に、高田本山教学部との共催にて、真宗高田派本山にて開講します。なお、いずれも受講料は無料です。

第1回	日時	6月17日(金) 13:30～15:30	受講者	31名
	題目	「現代の葬墓制と次世代継承—三重県の両墓制を中心に—」		
	講師	川又俊則氏（鈴鹿大学短期大学部教授、副学長）		
第2回	日時	11月7日(月) 13:30～15:30	受講者	74名
	題目	「高田派教学の歴史」		
	講師	栗原直子研究員（龍谷大学非常勤講師）		



仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関する基礎的な内容に加え、真宗高田派の歴史や法宝物に関する知識を学んでいただきました。

日時	8月22日(月)～8月26日(金) 9:00～17:50
対象	寺族及び一般者
受講料	無料（但し、テキスト代は実費負担）
教科講師	「仏教学」栗原廣海研究員（本学学長） 「仏教史」金信昌樹研究員（本学非常勤講師） 「真宗学」松山智道研究センター長（本学特任講師） 「真宗史」清水谷正尊研究員（本学非常勤講師） 「高田の歴史と法宝物」新光晴研究員 （真宗高田派本山専修寺宝物館主幹）
受講者	36名（教師検定講習受検者13名、一般23名）



基礎講座



公開講座

仏教専門講座（高田本山寄附講座）

仏教基礎講座と同じく高田本山からの寄附を基に実施するもので、仏教や真宗に関するより専門的な知識を年間10回の講座（試験日として11回目あり）で学んでいただきます。講座科目は隔年で内容が変わり、全10科目（隔年で5科目）を開講します。この講座は、文部科学省の履修証明制度

に則った「履修証明プログラム」として開講し、全10科目の講座を修了された方には学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。

日 程	4月15日(金)	5月27日(金)	6月24日(金)	7月29日(金)
	9月30日(金)	10月28日(金)	11月25日(金)	12月16日(金)
	1月27日(金)	2月24日(金)	3月 3日(金)	
	9時00分～17時50分(50分の昼休憩あり)			
対 象	寺族および一般(真宗高田派の教学を学びたい方)			
受講料	無料(但し、テキスト代は実費負担)		受講者	36名
教 科 講 師	「真宗学概説」 栗原廣海研究員(本学学長) 「真宗学講読Ⅱ」 金信昌樹研究員(本学非常勤講師) 「真宗学講読Ⅳ」 北島恒陽研究員(四日市大学非常勤講師) 「真宗史講読」 栗原直子研究員(龍谷大学非常勤講師) 「仏教学講読Ⅱ」 清水谷正尊研究員(本学非常勤講師)			

運営委員会開催の状況

第1回	4月19日(火) 16:30～17:20	○第1回公開講座について ○基礎講座について
第2回	6月21日(火) 16:30～16:45	○基礎講座について
第3回	7月26日(火) 16:30～17:00	○基礎講座について
第4回	9月29日(木) 16:30～17:00	○基礎講座の反省について ○第2回公開講座について
第5回	11月30日(水) 16:30～17:15	○平成29年度センター年間行事予定について ○平成29年度公開講座講師について
第6回	2月14日(火) 16:30～17:30	○平成28年度の講座について ○平成29年度の講座について

育児文化研究センター

関連会議の開催

センター会議 (年2回) 16:30～18:30

前期センター会議: 5月18日(水) 参加者22名

後期センター会議: 12月6日(火) 参加者21名

平成28年度事業報告、話題提供: 杉本研究委員「社会福祉法の改正について」

拡大運営委員会開催状況 (年3回) 16:30～18:30

第1回 5月11日(水) 第2回 9月28日(水)

第3回 平成29年3月1日(水) 内容: 平成28年度事業報告、平成29年度に向けて

学内運営委員会開催 (月1回)

開催日: 10/27(木)、11/24(木)、12/22(木)、1/26(木)、2/24(金)、
3/21(火)

ひろば運営会議開催 (月1回)

「おやこひろば たかたん」の振り返り、計画確認、課題検討を専任スタッフと運営委員で行う。

開催日: 10/20(木)、11/28(月)、12/22(木)、1/23(月)、2/23(木)、
3/27(月)

地域子育て支援事業

地域開放事業「おやこひろば たかたん」

子育て家庭の支援と子育て支援に関する研究フィールドの「おやこひろば たかたん」は6年目を迎え、津市を中心に子育て親子の皆さんにご利用いただいています。今年度は、穏やかな雰囲気の中で、親子がふれあいを深め、遊びや関わりの中で親も子も「気づき」のもてる広場をめざしたスタッフの関わり、環境設定に努めています。

また、保育ボランティア学生の広場参加が、学生のみならず参加している親子さんにも有意義な場となるような支援を心がけています。



1) 「おやこひろば たかたん」活動状況と利用者数（年間）

日 時	月曜日：0、1歳児 木曜日：2歳児以上 10:00～12:00		
対 象	未就園児とその保護者	場 所	育児文化室（1号館2F）
開催数	月曜日：44回 木曜日：47回 計：91回（年間）		
のべ利用者数	子ども1,388名 大人1,286名 (191組) 総数2,674名	ボランティア支援者	一般137名 学76名

2) 子育て講座

ひろば開催日（月1回）にセンター研究員を講師に親子や保護者を対象とした子育て講座を開催しました。10～2月までにふれあい遊びや造形など5回開催、年間で10回の講座にのべ149組の親子の参加がありました。



3) ひろば関係研修会

第2回ひろば支援者研修会

1月19日（木）12:30～14:00

ひろばスタッフより、参加したひろば支援者研修会の報告を受けた。その後、参加者間で子育て支援の現状や「おやこひろば たかたん」の運営について意見交換を行いました。参加者：14名

4) 「おやこひろば たかたん」ホームページ

「ひろば開催日」「活動案内」「活動紹介」等、現在の活動や今後のご案内をしています。

子育て相談

地域への子育て支援の事業として、育児に関する心配や不安を相談できる個別対応の子育て相談を予約制で行っています。「発達相談（千草）」「子どもの食（鷺見）」「子どもの健康（長倉）」「子育て・教育（青木）」の内容で、平成28年度は17件の相談利用がありました。

研究会の開催

センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しています。

定例研究会（年3回）

第1回	第44回定例研究会	7月12日（火）16:30～18:30
	(1)研究報告① 青木信子 研究員 「幼稚園実習における学生への指導のあり方に関する一考察」	
	(2)研究報告② 長倉里加 研究員 「子どもの病気に関する親の不安と対処行動 ーおやこひろばたかたんに来る保護者へのアンケートからー」	
	(3)グループ研究会について	参加者14名
第2回	第45回定例研究会	11月2日（水）16:30～18:30
	(1)研究報告① 井澤 淑子 研究員 「保健センターでの子育て支援から見えるもの ー母子保健推進員（つぼみん）の取り組みとしてー」	
	(2)研究報告② 林 韓燮 研究員 「創作絵本をデータ化したデジタル絵本の可能性」	
	(3)グループ研究会について	参加者15名
第3回	第46回定例研究会	2月14日（火）16:30～18:30
	(1)研究報告① 山本 敦子 研究員 「子育て講座と公開講座における手作り楽器制作の取り組み と課題」	
	(2)研究報告② 小菅 千恵子 研究員 「保育実習IIにおける学生の学びの一考察 ー実習を通して安全保育に対する意識を高めるー」	
	(3)グループ研究会について	参加者14名



グループ研究会

グループ研究①	「子育て支援の現状と課題」（8名）	10月27日（木） 11月24日（木） 12月23日（金） 3月9日（木）
グループ研究②	「子育て支援のひろばについて」（8名）	10月31日（月） 12月22日（水） 2月9日（木）
グループ研究③	「子どもの基本的な生活習慣と育児」（6名）	11月28日（月） 1月30日（月） 3月13日（月）

子育て応援隊活動

保育・子育てに関わる地域でのボランティア活動は、学生にとって貴重な体験と学びの機会となります。今年度も参加者全員を対象に事前・事後指導を実施し、個々の学生の確かな学びとなるような支援に取り組みました。平成28年度は26件、のべ257名の学生が活動しました。



広報物及び研究成果の発行

センターたより「いくぶん」第21号

「おやこひろば たかたん」をはじめ育児文化研究センターの事業報告や新入会
研究員の紹介を掲載し10月21日に発行しました。

育児文化研究センター紀要「高田短期大学育児文化研究」第12号

研究論文6編、調査報告1編、実践報告4編と定例研究会での研究報告要旨、3つのグループ
研究会の活動報告等を掲載し3月15日に発行しました。

地域連携事業

津市つながりひろば運営委員会

津市委託の子育て支援事業について事業方針や企画、実施振り返り等を協議します。年に3回開
催しました。開催日：8月4日（木）、12月8日（木）、3月2日（木）

みえ次世代育成応援ネットワーク

県と連携した次世代育成応援事業について取り組み方針や会員総会、わくわ
くフェスタ等に関して協議する運営委員会が年に5回開催されました。

子育て応援！わくわくフェスタ

「モ〜っと、モ〜っと、家族であそぼう！ふれあおう！」

11月19日(土)20日(日) 10:00~16:00 みえこどもの城
学生企画（青木・山本ゼミ）によるお話しと制作のあそびひろばブースに
参画 参加：学生29名、教員3名（来場者8,500名）

みえこどもの城連携協定による事業

昨年度に引き続き、本学と三重こどもわかもの育成財団との連携協定に関わ
る学生によるイベント開催の企画立案、実施での支援を行いました。「みんな
な集まれ！たかたん あそびひろば」では2回の実施で、のべ学生130人、
教員7人が参加した。ゼミでの学習成果を親子対象に発表、実演する貴重な
機会となりました。

第2回「たかたん あそびひろば」

12月17日(土) 11:00~15:00

「ハンドベル演奏、パラバルーン、あそびコーナー」（福西ゼミ）、
劇「プレーメンの音楽隊」（青木ゼミ）、劇「どうぞのいす」
（長倉ゼミ）、製作「サンタの靴下つり」（イムゼミ）、
劇「やさいひめ」（鷺見ゼミ） 参加：学生96名、教員5名

津北ロータリークラブ プロジェクト事業

津北ロータリークラブの平成28年度ロータリー財団地区補助金活用事業の
協力団体としてプロジェクトの企画・運営に携わり、実施にあたっては共催として
関わりました。

「子育て応援 歌ってあそぼう！ケロポンズ ファミリーコンサート」

2月19日（日）13:00~15:00 三重県総合文化センター 大ホール
来場者：親子・家族 871名 短大関係者：学生21名、教職員15名



津市委託事業

津市ひろば関係者交流会事業（つながりひろば）：年4回開催

第1回	6月23日（木） 18:30～20:30	浜っこ幼児園
	①話題提供「安心できるひろばづくり ～公立保育園での支援センターの役割と現状～」 ②ワークショップ「気になる親子に寄り添うために」	
第2回	8月25日（木） 18:30～20:30	津市中央保健センター
	①話題提供「保健センターでの子育て広場からみえるもの ～母子保健推進員（つぼみん）の取り組み～」 ②ワークショップ「知ってもらうためにできること」	
第3回	11月17日（木） 18:30～20:30	第2はなこま保育園
	①話題提供 「私立保育園での子育て支援センターの様子」 ②ワークショップ 「お父さんを巻き込む手だて」	
第4回	2月23日（木） 18:30～20:30	北部市民センター
	①話題提供 「子育て支援広場 にこにこキッズの人気」 ②ワークショップ 「子育て支援の役割を見直す」	



津市子育て支援者事業：年2回開催

第1回	7月28日（木） 18:30～20:30	高田短期大学
	テーマ：「困った親への対応」 講師：松岡典子（みくみえ）	
第2回	2月2日（木） 18:30～20:30	高田短期大学
	テーマ：「支援者の心の健康についてーカウンセリングマインドから考える」 講師：千草篤磨（高田短期大学）	



津市親支援事業：年4回開催

子どもとパパ&ママ ファミリー教室		
父親教室	「遊ぼうお父さん！親子で育もう体の力」	講師：柳瀬慶子（高田短期大学）
母親教室	「ゆったり語ろう、つながろう！」	講師：青木信子（高田短期大学）
第1・2回	7月10日（日） 10:00～11:30	高田短期大学
第3・4回	11月12日（土） 10:00～11:30	久居総合福祉会館



ホッとひろば事業：年3回開催

乳幼児を子育て中の親を対象として、子どもから離れてホッとできる時間と子育て中の親同が交流できる場「子育てママのホッとひろば」を提供しました。講師は本学の橋本景子特任准教授。

開催日： 第1回 8月23日（火） 第2回 11月19日（土）

第3回 2月14日（火） 10:00～12:00

開催場所： 第1・2回 高田短期大学 第3回 桜橋子育て支援センター

その他

センターリーフレット

改訂版（平成29年度版）を作成しました。

子育て情報発信（子育て情報誌への提供）

『きらきら』（隔月発刊）の「子育てライフ応援隊！一緒に子育てはじめましょ」に子育て家庭に向けた情報を掲載しました。

キャリア研究センター

関連会議

キャリア研究センター会議

第1回 平成28年5月26日（木）17：40～18：15

平成27度の活動報告、平成28年度にセンター構成員に応募くださり本学学長の承認をうけた構成員の紹介、平成28年度の事業計画について運営委員より説明し、承認いただきました。

第2回 平成29年1月24日（火）17：30～18：30

平成28年中の活動報告、平成29年度の事業計画について運営委員より説明し、すべて承認いただきました。

運営委員会開催の状況

4月5日（火）、5月12日（木）、6月9日（木）、7月18日（月）、10月4日（火）
11月8日（火）、12月13日（火）、1月17日（火）、3月3日（金）

研究会

第1回 平成28年5月26日（木）16：30～17：30

- ・講師：センター研究員 今光俊介（鈴鹿大学）
- ・テーマ：「私立大学における留学生支援の現状」

第2回 平成29年1月24日（火）16：20～17：30

- ・講師：センター研究員 野崎千恵（高田短期大学キャリア支援センター）
- ・テーマ：「キャリア支援を通して感じていること キャリアカウンセラーとして」

地域連携協定先外部会議

次期津市総合計画策定業務プロポーザル審査			
日 時	6月6日（月） 15：30～18：00	場 所	津市役所
内 容	津市が策定している総合計画が平成29年度で計画期間が終了することから、次期津市総合計画策定に向け、業務委託をする事業者選定を目的とした審査に参画し、選定しました。		
津市男女共同参画審議会検討委員会			
日 時	5月13日（金）、8月22日（月）、8月29日（月）、10月3日（月）、10月25日（火）、11月22日（火）、12月27日（火）		
内 容	男女共同参画にかかる津市内のすべての平成27年度施策に対する事業評価を行いました。検討委員会で報告書案を作成し、全体会である審議会に提出し確定した「評価と意見」は津市のHPに掲載などして公表しています。		
津市総合計画審議会			
日 時	8月26日（金）、10月4日（火）、1月23日（月）		
内 容	平成30年度から10年間の次期津市総合計画策定に向けた審議会に参画しています。平成27年度は骨子や章立てについて協議し決定しました。		

地域連携事業

「株式会社まちづくり津夢時風」連携事業

1. 中心市街地活性化プロジェクトに参画

本年度6月1日(水)、高田短期大学は株式会社まちづくり津夢時風と連携協定を締結し、津市内での地域活性化に関する活動において、相互に連携・協力し、学生が主体的に関与しながら、地域及び相互の発展に資する活動を実施しました。



KJ法で課題の整理をする学生の様子

7月7日(木)のスタートアップゼミナールにおいて、津商工会議所の方に商店街の現状についてお話をいただいた後、「津市の中心市街にある商店街の課題は何か」についてブレインストーミング法でさまざまな角度から課題を洗い出し、KJ法を用いて課題の整理・分類を試みました。また、翌週には、抽出した商店街の課題をもとに「集客力のある商店街にするためには」というテーマで議論を深め、学生目線で考えた「集客力のある商店街」をテーマにまとめ、津市商工会議所の方や津新町商店街組合長に提案・報告しました。

2. 津市中心市街地活性化に向けた学生によるプレゼンテーションの開催

夏休みに杉浦センター長、畠山研究員、岡田研究員の1年生のゼミナール学生が商店街に繰り出し、一人ひとり商店主にヒアリングを実施、ターゲットごとに商店街の活性化に向けた取り組み提案を模造紙にまとめ、本学の学園祭開催期間中に展示しました。また、11月1日(火)には、本学図書館グループワークエリアにて、津市中心市街地活性化に向けたプレゼンテーションを、株式会社まちづくり津夢時風を代表してお越しいただいた津商工会議所の方2名に対して行いました。

女子大学生、20代の働く女性、訪日外国人、子育て世代、高齢者世代の5つにターゲットを絞り、それぞれのターゲットを津市中心市街地に誘客するための提案を行いました。

「津市包括的協力連携協定」連携事業

1. 一身田寺内町のWebサイトの構築

8月24日(水)、高田短期大学は津市のまちづくりにおける重要なパートナーとして相互に連携協力をすることを目的とした津市包括的協力連携協定を締結しました。

インターネット上の様々なサービスをうまく活用し、仕事や学業、生活に活かす方法を学ぶ科目「ネットワーク活用(鷲尾研究員担当科目)」では、一身田寺内町の商店街に焦点を当て、4店舗のWebサイトを構築しました。

まずは、7月5日(火)、中川洋装店、岡本屋、田中屋、たけやの各店主の方々が来学し、店主の方々と学生たちとで、構築のためのキックオフミーティングを行うことからスタートしました。その後、グループのメンバーとともに店舗に出向き取材をし、一人ひとりが課題として制作に取り組みました。



2. 「一身田印」認定商品発掘活動

「一身田印」に認定可能な地域資源を発掘し認定数を増やすことを目的に、杉浦センター長のゼミナール2年生11名が活動をしました。6月27日には一身田寺内町



を中心に商店主や町歩きをされている方に、一身田印認定基準に合致する地域資源を聞いてまわりました。集めた情報は持ち帰り、整理し、原材料や生産工程、一身田地域に対するこだわりなど、より深く地域資源を把握するために学生一人一資源を担当して、事業主の方を訪問しインタビューを行い、認定申請書を作成しました。

3. 「一身田印」認定商品開発・販売

杉浦センター長のゼミナール1年生13名が一身田寺内町に店舗を構える商店3店舗と連携し、一身田印認定を目指した商品開発に取り組みました。学生から23種類の商品開発企画案が提出され、そのなかから商店主に選ばれた企画案をベースに協働して新規商品開発・改良に取り組み、3店舗4種類の商品が、平成29年1月に新たに一身田印に認定されました。29年2月末時点での一身田印認定商品数は24種類となりました。

また平成29年2月25日(土)、26日(日)に津市主催第7回スイーツフェスタおよび2月26日津市一身田で開催されたプラレール・マルシェ会場で、これらの認定商品を学生がPRしながら販売しました。



学生のアイデアで新たに開発された商品



販売する学生

その他の地域連携事業

1. シニアパソコン教室・パソコン指導ボランティア養成講座開催

(1) シニアパソコン教室

平成21年度から続いているシニアパソコン教室は、平成28年度3回開催しました。

1回目	7月 3日(日)	受講者 30名	スタッフ 29名：学生 18名、じよぼみ 10名、研究員 1名
2回目	12月 18日(日)	受講者 30名	スタッフ 36名：学生 13名、じよぼみ 10名、研究員 1名 パソコン指導ボランティア養成講座受講生 12名
3回目	3月 5日(日)	受講者 30名	スタッフ 34名：学生 13名、じよぼみ 8名、研究員 1名 パソコン指導ボランティア養成講座受講生 12名 ※じよぼみ：ボランティア団体「情報ボランティアみえ」

7月3日(日)の初回は、4回目の参加となる鷺尾ゼミナール2年生が講師役を務め講座を進行しました。1年生13名は初めての参加であり、受講者と会話しながら講師の説明を補足し、操作の援助を行いました。講座は、10:00から14:30までの午前、午後に分かれており、内容は、午前にパソコンの基本としてマウス操作、ウィンドウ操作、文字入力の方法、インターネット入門としてブラウザソフトの使い方、ヤフーサービスの利用方法、キーワード検索の基礎です。午後は毎回内容が異なっており、今回のメインはネット上のサービス「ラベル屋さん」を使っての暑中見舞い作りを行いました。その後は自由実践の時間とし、受講者は隣の援助者に聞きながら、ネット検索やGoogleストリートビュー、YouTubeなどを試しました。最後にネット利用の注意点を鷺尾研究員が紹介しWebアンケートを実施し終了しました。



第2回シニアパソコン教室の様子

12月18日(日)の2回目はパソコン指導ボランティア養成講座と同時開催しました。鷺尾ゼミナールの1年生13名が、2回目の参加で初めての講師役を務め、パソコン指導ボランティア養成講座の

受講生が、援助役として受講者の横について支援をしました。初めての講師役、初めての援助役、指導、運営にあたるスタッフ、それぞれが目的をもった活動となりました。

平成29年3月5日（日）の3回目は、パソコン指導ボランティア養成講座の受講生が講師役として初めて前にたって、講座を進めました。

(2) パソコン指導ボランティア養成講座

パソコン指導ボランティア養成講座は、今年で3年目となる情報ボランティアの養成講座です。今回は17名の応募があり、12名が最終日まで受講を続けた。全6回シリーズで、そのうち2回目が本学でのシニアパソコン教室の支援スタッフ体験、5回目にリハーサルを行い、最終回の6回目は、講師役に挑戦する講座です。講座の概要は表の通りで、講座と講座の間は、グループ活動支援サイトである「サイボウズLive」で、情報交換や資料の配布、制作物のアップ、添削等など、受講生のグループ活動の支援や講座運営に活用し講座を補足しました。

(3) スタッフ学習会支援

毎月定期学習会を本学第4演習室において、18:30～21:00の時間帯に開催しました。講座の準備、コンピュータやネットワークに関する新しい情報の提供やテーマを決めての学習を行いました。

パソコン指導ボランティア養成講座の概要	
1回目	「教えること」とパソコンの基本 11月19日（土）10:00～12:00 於：中央公民館 受講生 14名、じよぼみスタッフ6名、研究員1名
2回目	パソコン教室援助者体験 12月18日（日）9:30～15:30 於：高田短期大学 受講生 12名、じよぼみスタッフ10名、研究員1名
3回目	知識確認、シニアパソコン教室内容 1月28日（土）10:00～12:00 於：高田短期大学 受講生 12名、じよぼみスタッフ6名、研究員1名
4回目	講座の準備、指導案作成 2月18日（土）10:00～12:00 於：中央公民館 受講生 11名、じよぼみスタッフ10名、研究員1名
5回目	講師体験のリハーサル 2月25日（土）13:00～16:00 於：高田短期大学 受講生 11名、じよぼみスタッフ7名、研究員1名
6回目	パソコン教室講師体験 3月5日（日）9:30～15:30 於：高田短期大学 受講生 12名、じよぼみスタッフ8名、研究員1名



パソコン指導ボランティア養成講座の様子



リハーサルの様子

2. 「熟議～地域の魅力を考える～」に参加

7月16日（土）、オフィスワークコース1年生6名が、三重大学講堂で行われた「熟議～地域の魅力を考える～」に参加しました。当日は、三重県内の大学に籍をおく大学生・大学院生のほか、教職員、地域の経営者など様々な方が集い、地域の魅力や改善点などについてブレインストーミングで意見を出し合い、KJ法でまとめ発表しました。



グループワークの様子 堂々とプレゼンする学生の姿

3. 「地域ビジネス創出プロジェクト (Social Business Project、通称SBP)」に協力

4月15日(金)、三重県立南伊勢高等学校南勢校舎に杉浦センター長が向き、地域ビジネス創出プロジェクト (Social Business Project、通称SBP) ビジネスマナーアップ研修会の講師を務めました。

SBPとは、人口減少や高齢化の進む地域の中で、その地域の高校生が中心となって、行政や民間企業の協力の下、地域資源を活かしたビジネスを立ち上げ、自ら働く場を作り出すことで、地域に残りふるさとを守っていかこうとする取り組みです。

今回は、まちのゆるキャラ「たいみー」をかたどった「たいみー焼」を製造・販売したり、南伊勢町にある素晴らしい商品を、高校生の感性で発信し販売しているセレクトギフト「ふるさとギフト」の商品化や販売を行ったりして活動している高校生を対象に、企業訪問時のビジネスマナーや、プロジェクトをPRするプレゼンテーション時のポイントについてアドバイスをしました。



「ふるさとギフト」の商品

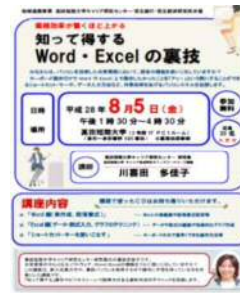
就業支援事業

株式会社百五銀行・株式会社百五総合研究所との連携事業

1. 「業務効率が驚くほど上がる 知って得する Word・Excel の裏技」実施

8月5日(金)、本学3号館PC教室にて、「業務効率が驚くほど上がる 知って得する Word・Excel の裏技」講座を開催し、48名の方に参加いただきました。

今回の講座は、百五銀行・百五総合研究所との共催で、川喜田研究員が講師を、寺家研究員がティーチング・アシスタントを務めました。当日の受付や会場の運営はキャリア育成学科オフィスワークコースの学生3名が行いました。受講生の皆さんには、ホームポジションが重要となる正しいタッチタイピングからスタートし、日常業務を効率的に行うための Word・Excel の素早い操作方法や関数の組み合わせ方などを学んでいただきました。



2. 「Access 入門講座」実施

平成29年2月23日(木)、本学3号館PC教室にて、「Access 入門講座」を開催し、県内の事業所等からに就労している34名の参加がありました。

講座は、データベースソフト Access を活用するために、テーブルの作成方法からナビメニューによるシステム作りの方法までの幅広い内容を、6時間の集中講座で学習していただくものでした。受講者の64%の方が全くの初心者でしたが、アンケート結果によると全員が講座に満足されたようです。



センター単独事業

1. 「クレーム対応基礎講座」実施

9月5日(月)、本学大講義室にて「クレーム対応基礎講座」を開催し、40名の方に参加いただきました。講師は、長谷川研究員が務めました。様々な業種・職種の方に参加いただき、受講生の中には、オフィスワークコースを卒業し地域で活躍している卒業生の姿も散見されました。



2. 「高短 One day セミナー」実施

平成29年2月4日（土）、キャリア研究センターの事業の1つの柱である、地域に向けたキャリア形成の支援・研修事業の一環として、高校2年生を対象とした高短 One day セミナーを開催しました。野呂主任研究員と野崎研究員が講師を務め、望ましいコミュニケーションのあり方やチームで協力することの大切さについて、ゲームやグループワークを通じて楽しく学ぶ内容の講座を行いました。また、2つの講座の間には、お菓子パーティーを行い、介護福祉コースの学びについての mini 講義をはさみながら、和気あいあいとした雰囲気の中、高短の先輩達に学生生活のことなどを相談する機会となりました。



3. 「キャリア研究センター研究・年報」第3号発行

『高田短期大学キャリア研究センター紀要・年報』第3号を発行（平成29年3月31日）

- 掲載論文：10本掲載
- 発行部数：500部

介護福祉研究センター

会議関係

運営委員会

第1回：4月21日（木）	第2回：5月19日（木）	第3回：6月9日（木）	第4回：7月7日（木）
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 運営委員会の開催日時 ▪ センター会議 ▪ 介護福祉セミナー ▪ センター紀要「介護・福祉研究」 ▪ 研究員の推薦、継続確認 ▪ キャリアアップ講座 ▪ 白子公民館との連携事業 ▪ 研究センターメイトの創設 ▪ 5月定例研究会 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ センター会議 ▪ センター紀要「介護・福祉研究」 ▪ 研究員の推薦 ▪ センター事業担当者の決定 ▪ キャリアアップ講座 ▪ 研究センターメイトの創設 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 研究員の推薦 ▪ センターメイトチラシ案 ▪ バスツアーについて 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ バスツアーについて ▪ 介護福祉研究センター紀要「介護・福祉研究」執筆希望者について ▪ センターメイトの募集 ▪ 定例研究会 ▪ キャリアアップ講座 ▪ 白子公民館との連携事業

センター会議

前期センター会議			
日時	6月5日（日）	内容	平成27年度事業報告について 平成28年度事業計画について
場所	介護福祉研究センター		

研究活動

定例研究会

	第9回定例研究会	第10回定例研究会
日時	6月16日（木）	7月14日（木）
場所	介護福祉研究センター	介護福祉研究センター
テーマ	「社会保障と税の一体改革」	「母子世帯の貧困と母子生活支援施設」
発表者	千草篤磨センター長	武藤敦士研究員
参加者	10名	9名

第11回定例研究会		第12回定例研究会	
日時	10月12日(水)	11月12日(土)	
場所	介護福祉研究センター	介護福祉研究センター	
テーマ	「介護分野に関わるリハビリテーションを経験して」	「精神科病院に求められる役割とその課題～政策変遷からの一考察～」	
発表者	宮川智行研究員	青山智香研究員	
参加者	参加者11名	参加者9名	
第13回定例研究会		第14回定例研究会	
日時	12月14日(水)	1月11日(水)	
場所	介護福祉研究センター	介護福祉研究センター	
テーマ	「介護職員の人材確保における現状と課題」	「ロービジョンケアにおけるブラインドメイクの紹介」	
発表者	中谷政義研究員	福田洋子研究員	
参加者	参加者9名	参加者7名	
第15回定例研究会			
日時	2月8日(水)		
場所	介護福祉研究センター		
テーマ	「くぬぎの木 特別養護老人ホームにおけるユニットケアの取り組み」		
発表者	山本伽奈研究員		
参加者	参加者12名		

実施事業

介護職員のためのキャリアアップ講座

第1回キャリアアップ講座		第2回キャリアアップ講座	
日時	6月24日(金)	7月13日(水)	
場所	特別養護老人ホームかなしょうづ園	特別養護老人ホームかなしょうづ園	
テーマ	「ターミナルケア研修」	「ターミナルケア研修」	
講師	福田洋子研究員	福田洋子研究員	
参加者	25名	27名	

高校生を対象とした介護福祉啓発活動

介護体験バスツアー			
日時	8月12日(金) 10:00～15:00	参加者	10名
場所	特別養護老人ホーム安濃聖母の家、特別養護老人ホーム報徳園		

介護福祉セミナー

第1回介護福祉セミナー		
第1部	日時	6月5日(日) 13:00~14:30
	場所	介護実習室
	テーマ	「筋膜リリースセルフケア 肩こりを治そうー」
	講師	高山文博研究員
	参加者	17名
第2部	日時	6月5日(日) 14:50~16:20
	場所	介護実習室
	テーマ	「震災時の感染予防及びエコノミークラス症候群の予防」
	講師	福田洋子研究員
	参加者	21名



第2回介護福祉セミナー		
第1部	日時	12月4日(日) 13:00~14:30
	場所	本学音楽室
	テーマ	「音楽レクリエーションの魅力」
	講師	あそびうたユニット：ザ・ふんころがし 矢野加奈子研究員、藤田久美子先生
	参加者	41名
第2部	日時	12月4日(日) 14:50~16:20
	場所	本学音楽室
	テーマ	「介護過程入門 - 相手の立場に立って考えてみようー」
	講師	中川千代研究員
	参加者	41名

白子公民館の高齢者と学生の交流事業

第1回	
日時	6月4日(土) 11:00~12:00
参加者	高齢者：20名 学生：8名 引率教員：1名
内容	ハンドマッサージについての説明と実演、歌や簡単な運動を交えたレクリエーション、学生のピアノ演奏など
第2回	
日時	7月2日(土) 11:00~13:00
参加者	高齢者：10名 学生：9名 引率教員：1名
内容	七夕にちなんで、くす玉と吹き流し(仙台七夕祭りのイメージ)を3グループ(高齢者+学生)に分かれて、製作する。その後、追手風部屋の激励に相撲部屋訪問する。



第3回	
日時	9月3日(土) 11:00~12:30
参加者	高齢者: 11名 学生: 4名 引率教員: 1名
内容	歌に合わせた簡単体操、クロスワードパズル、パズルにちなんだ絵に色をつける。
第4回	
日時	10月1日(土) 10:40~12:15
参加者	一般の方10名、学生5名、中川研究員
内容	「三百六十五歩のマーチ」に合わせた体操、県名当てクイズ(グループ対抗)~日本地図ボードを活用して~
第5回	
日時	11月5日(土) 11:00~12:00
参加者	一般の方17名、学生7名、中川研究員
内容	「三百六十五歩のマーチ」に合わせた体操、リズム膝たたき 人間すごろく(グループ対抗) その他: 伊勢新聞の記事(11月6日付)
第6回	
日時	H29年2月4日(土) 11:00~12:00
参加者	一般の方17名、学生11名、中川研究員
内容	「三百六十五歩のマーチ」に合わせた体操、リズム膝たたき 手作り飾り立て(メッセージ入り)の作成終了後、公民館の有志の方々に味ご飯を炊いていただき、学生と共におにぎりを作り、卵焼きや漬物等でさらに交流する。



施設との連携事業

12月2日(金) 13:00~16:00、於) 特別養護老人ホーム報徳園
参加人数: 介護福祉コース2年生14名、利用者20名、福田研究員、徳山研究員

地域との連携事業

11月28日(月) 11:00~14:00、於) 本学介護実習室
白子公民館で活動する18名、介護福祉コースの学生35名が共に学び合う。

センター紀要

「高田短期大学介護・福祉研究第3号」発刊

平成29年3月31日発刊 執筆者は研究論文6名、調査報告1名、研究ノート1名

その他の学内情報

開学50周年記念事業の実施

本学の開学50周年を記念して、下記の事業を行いました。



高田短期大学長挨拶

記念式典・記念講演会の開催

7月1日（金）、三重県総合文化センター 三重県文化会館大ホールにおいて、高田短期大学教育後援会と樹心同窓会の後援を受け、記念式典・記念講演会を実施しました。本学教職員・学生のほか、真高田派ご法主 常磐井慈祥様、三重県知事 鈴木英敬様、津市長 前葉泰幸様をはじめ、多数のご来賓にご参加いただきました。

第1部では、高田短期大学長と栗原廣海学長が50年を振り返り、感謝の挨拶と共に今後の抱負を述べました。また、真高田派法主 常磐井慈祥様、三重県知事 鈴木英敬様、津市長 前葉泰幸様、衆議院議員 松田直久様、三重県私学総連合会会長 梅村光久様から祝辞をいただきました。この後、子ども学科1年生が「高田短期大学学歌」を披露しました。



子ども学科1年生による学歌斉唱

第2部では、早稲田大学教授でテレビなどでも活躍中の池田清彦氏をお招きし、「困難な時代をどう生きるか」と題してご講演いただきました。この記念講演は一般公開し、1,125人の参加を得て大いに盛り上がりました。

記念誌の発行

長年にわたり本学の振興にご尽力をいただいた方々や、これまでの卒業生の方々からご寄稿をいただき、本学の50年の歩みをとりとまとめた「高田短期大学開学50周年記念誌」を発行しました。



学歌の制定

開学以来、本学には学歌がありませんでしたが、開学50周年を記念して学歌を制定しました。

真高田派常磐井鸞猷前法主作詞、伴剛一氏作曲による「高田短期大学学歌」は、現在本学でチャイムとしても使用しています。今後の入学式や卒業式でも歌われる予定です。

津市と連携協力協定の締結

高田短期大学は津市と連携協力協定を締結し、8月24日（水）に津市本庁舎で調印式を行いました。津市長の前葉泰幸様、本学学長栗原廣海が登壇し調印しました。



本協定は、津市のまちづくりにおける重要なパートナーとして相互に連携協力をするを目的としています。今後、子育て子育てしやすい環境づくりに関する事、地域福祉の充実に関する事、キャリア教育や人材育成に関する事など、様々な連携事業に積極的に取り組んでまいります。

「高等教育コンソーシアムみえ」の活動

県内高等教育機関（13校）と三重県が連携して地域との連携を促進し、加えて教育・研究・地域貢献の各機能を向上させ、若者の県内定着による人口減少の抑制、及び地域の活性化を実現させるよう活動を行っています。まずは共同授業「三重を知る」の開発に向けた調査・検討や学生の意識調査に加え地域貢献の促進を図っています。

本学ではその一員として10月5日（水）の昼休みを利用して81名の学生を対象にボランティア等をネットワークで照会する「学生と地域活動」サポート情報局（通称：ぴたゼミ）のPRと活動を紹介、説明しました。

「私学連携協議会みえ」FD・SD研修会

三重県内の高等教育機関8機関（四日市大学、四日市看護医療大学、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿大学、鈴鹿大学短期大学部、皇學館大学、近畿大学工業高等専門学校、高田短期大学）合同のFD・SD研修会を、本学を会場として開催しました。

開催日時 12月26日（月）13:30～15:00

開催場所 高田短期大学 1号館4階 講堂

講 題 「大学経営の業務効率の改善と分析情報に基づいた戦略的な経営を実現する大学経営管理システムの紹介」

講 師 SAS Institute Japan (株) 公共・公益営業本部 執行役員 阿部 浩也 氏
情報基盤イノベーショングループ部長 安海 栄幸 氏
公共営業チームマネージャー 石垣 龍男 氏

参加者 私学連携協議会みえ加盟校の教職員 208名（うち本学40名）



高田短期大学 FD・SD研修会

自己点検・評価委員会主催の本学のFD・SD研修は以下のとおり開催しました。

第1部については、「私学連携協議会みえ」加盟校（鈴鹿医療科学大学、鈴鹿大学、鈴鹿大学短期大学部）より9名の方をお迎えしました。

開催日時 平成29年2月28日（火）13:00～

開催場所 大講義室

第1部 13:00～15:00

演題：「ループリック評価入門」

講師：大阪大学 全学教育推進機構

教育学習支援部 特任講師 浦田 悠 氏

第2部 15:15～16:30

演題：「作成したループリックの共有」

講師：高田短期大学 高等教育研究会

参加者 本学教職員39名、私学連携協議会みえ加盟校教職員9名



仏教行事委員会
学内仏教行事の実施

	新入生本山参詣	宗祖降誕会	灌仏会
開催日	4月5日(火)	5月16日(月)	6月20日(月)
講師	栗原 廣海(学長)	松山 智道(仏教教育研究センター長・子ども学科特任講師)	清水谷 正尊(非常勤講師)
参加者	247名	350名	309名

	追弔会	報恩講
開催日	10月17日(月)	12月12日(月)
講師	竹内 貴彦	栗原 廣海(学長)
参加者	335名	336名

ボランティア活動支援室

本学の教育理念である「やわらか心」の実践の場として、全学生にボランティア体験活動を推奨しています。

平成28年度の新しい試みへの挑戦

1. 三重県警察本部サイバー対策課と連携して、サイバー犯罪防犯ボランティアの育成とサイバーパトロールに力をいれ研修及び実践活動を展開しました。
2. 三重県教育委員会「高等教育機関の専門的な知識と技能を活かす教育プログラム」と連携、派遣要請のある社会教育、学校教育、自治体、福祉関係機関へ学生を派遣。高田短期大学ボランティア「やわらか心実践隊」として、学科を越えた技能チームとしての社会貢献チームとして高い評価を得ました。
3. 本学介護福祉コースの学生を中心とする鈴鹿市立白子公民館での高田短大学生の企画運営による地域交流サロンが高い評価を得て地域で注目され感謝されました。
4. 本学ボランティア部との連携によるチーム編成のためのコーディネート作業の円滑かつ充実が実現しました。また、ミャンマー、ラオス国境地域での小学校支援活動は、現地で高い信頼を得ました。



施設設備の整備事業の実績

1号館 1階東側出入口・事務局内の勤怠管理用静脈認証リーダー設置	
施行业者	セコム三重(株)
施工費用	864,000円
施行時期	平成28年5月
2号館 3階視聴覚教室プロジェクタ入替	
施行业者	シンリョー特機(株)
施工費用	835,200円
施行時期	平成28年8月
3号館 1階情報処理準備室のメールサーバー入替	
施行业者	(株)システムテクノ
施工費用	1,739,880円
施行時期	平成28年9月
1号館 3階造形演習室無線アクセスポイント追加工事	
施行业者	(株)システムテクノ
施工費用	302,184円
施行時期	平成28年9月
坂道防犯カメラ 入替工事	
施行业者	セコム三重(株)
施工費用	836,892円
施行時期	平成28年5月
介護実習棟 電動車いす、電動リフター機器備品設備	
施行业者	株式会社コージンカンパニー
施工費用	642,000円
施行時期	平成28年8月
公用車 プリウスα 購入	
施行业者	三重トヨタ(株)
施工費用	2,870,498円
施行時期	平成29年3月
介護実習棟 学校用机・イス整備	
施行业者	愛知(株)
施工費用	810,000円
施行時期	平成29年3月



キャリア教育の推進

生徒が育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、生徒たち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしています。また、環境の変化は生徒たちの心身の発達にも影響を与えています。とどまることなく変化する社会の中で、変化に恐れず、社会に対応していく力を育てることが不可欠となってきています。

生徒が未知の知識や体験に関心を持ち、仲間と協働して学ぶことを通して、未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を得ることで、生涯にわたり学び続ける意欲を維持する基盤を作り出せるものと考えています。

社会体験等の校外活動は、他者の存在の意義を認識し、向社会性を高めたり社会との関係を学んだりする機会となり、将来の社会人としての基盤づくりともなると考えられています。

その基本に基づき、本校は、ほとんどの生徒が進学を希望している関係上、進路情報の豊富な企業や大学と連携し、自己研鑽の一助としています。また、夏休みを利用しての体験型校外学習として、高校4年生は、自らコンタクトをとり現場へ直接出向き、実際に社会で活躍している方々の話を聞くなどして、自分自身が求める将来像について、より一層理解を深めるべく自己努力に努めていきます。

進路・職業観を考える講演会・座談会

	鈴鹿医療科学大学連携講座	ベネッセ進学フェア 愛知県体育館にて
対象	高1・II・III年	高1
実施日	5月18日(水)	6月18日(土)
題目	医療系学部の現状講演	
講師	薬学・看護・医療技術学部関係者	



高4年 校外宿泊学習(7月25日から27日までキャリア学習の一環として、東京の企業・大学で研修を実施)

中学3年生より準備を進めた東京キャリア宿泊学習を実施しました。

1日目は、東京大学において現役東大生の卒業生との座談会で、学生生活、学習方法、研究内容などを伺い、夜は福島大学教授でメンタルトレーナーの白石豊先生による講話を拝聴しました。「夢をかなえるコツ」と題した講演では、自分の夢を見つけ、どのように実現させていくかについて、一流のアスリート達への指導実践例を通じて説明を受けました。

2日目は、生徒が自主的に選び、交渉した企業や大学を訪問しました。会社の施設や大学の研究室を自らの目で見て、そこで働く方々の話を実際に聞くことによって、進路についての意識を高めることができました。夜はNPOタテイトの協力を得て進路に関するワークショップを行いました。同窓生との座談会において、進路選択の経験談や仕事に関するアドバイスを受けました。

3日目は、国会議事堂の見学を行い、生徒達は研修を通じて、将来の夢や志望・進路選択の幅を広げ、次の一步を踏み出す契機を得ることができました。



部活動の推進

部活動は学年や学級を離れ、共通の興味と関心を追求し、その中でマナーやルールを守る社会性を身につけることや、自らの意思で参加し活動するという自主性を養い、活動を通して体力や技術の向上にとどまらず、個性の伸長を図ることを目的とする教育活動の一つであります。

集団活動の中で協力することを学び、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、部活動の楽しさや喜びを感じ、学校生活に豊かさをもたらすだけでなく、生涯にわたってスポーツ・文化・芸術・科学に親しむ豊かな人間性を培うことを目指し、継続的に取り組んでいます。

中学生においては人間形成をするうえで重要な時期であるため、継続し続けることに関して部顧問と密接に連携し、自分を律し他人を思いやること、社会のルールを学ぶ一助としています。

また、練習成果を競う県内大会において優秀な成績を収めることで、更なる大きな目標に向かう意欲が部活動の大きな継続性になっていると考えられます。

平成29年3月現在のクラブ活動所属生徒数

高等学校	文化部	25部	535名	(男144名・女391名)
	運動部	18部	593名	(男393名・女200名)
	同好会等	5部	124名	(男40名・女84名)
	計			1,252名
中学校	文化部	10部	175名	(男93名・女82名)
	運動部	11部	364名	(男210名・女154名)
	同好会等	7部	35名	(男14名・女21名)
計			574名	



活動実績

高等学校

運動部	インターハイ	堀 孝輔(新体操個人総合準優勝) 卓球・馬術・柔道・なぎなた・空手(個人参加)
	国民体育大会出場	馬術・なぎなた・ヨット(個人参加)
	その他東海大会出場	水泳・軟式野球・陸上競技
文化部	全国大会出場クラブ	将棋・放送・文芸

防災教育・危機管理教育の取り組み

火災、地震など予測不可能な緊急事態が発生した場合、発生時に冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災意識の高揚に取り組むべき事業展開を推進しています。

本年度も昨年度同様、地域住民の方（約150名）、自治体及び消防署等の関係団体との連携のもと、地域住民は災害発生時避難所指定されている本校までの避難経路及び地域間状況把握連携の確認のため、8月31日（水）に本校との合同避難訓練を実施し、生徒が体の不自由な方の避難介助や、バケツリレーによる消火活動を行うなど体験型訓練を実施しました。地域住民



の方には、非常用品の使用方法などについて、津市危機管理防災室の職員より講習していただきました。

また、本年卒業生が学校へ寄付していただいた非常食を地域住民備蓄用品として贈呈し、地域貢献にも努めています。

危機管理の取り組みとして、学内機密情報の保護のため、パソコンや端末記憶装置持ち込み等について、取扱規則を定めて個人情報の漏洩がないように、教職員に意識の徹底をはかっていると共に、学校関係者や生徒間での誹謗中傷を早期発見するためトータルにサポートする事業を専門業者に委託して危機管理に努めています。



保護者への情報発信源として「あんしんネット」、「きずなネット」等を利用し、最新情報を随時的確に提供しています。

避難訓練	平成28年8月31日（水）実施
目的	地震発生時における避難場所、避難経路の確認 地域の住民の実態を把握する 本学と地域住民の連携による避難誘導
要領	想定状況：震度5弱および大津波警報発令
訓練内容	避難の実働訓練 地震発生による身の安全確保、 および地域住民の避難誘導・避難介助 消防署の協力のもと、生徒によるバケツリレー、煙体験、 車いす避難者介助救護訓練など その他、協力団体による非常食等の試食体験、津市職員 による地域住民への災害に関する講習



教職員資質向上への取り組み（初任者研修、学内研修、中部私学研修、中堅研修など）

新規採用教員研修の推進

初任者研修として中京地区の他の私学教員と8月17日から19日までの3日間で愛知・岐阜・三重県下私立学校合同合宿研修を実施し、私立学校教員としての実践的指導力と使命感を養うと共に、幅広い識見を習得させることや心構え等について研修し教育指導の充実を図りました。（本年2名参加）

研修参加教員からは、教員として改めて考えさせられるよい機会であったと感想がありました。

初 日	講演テーマ		
	「私学教育の現状と課題」	日本私学研究所副理事長	平方 邦行氏
	「教育をとりまく現況と私学教育の基本 について」	(株)Eデュケショナルネットワーク ソリューション事業本部次長	光延 栄治氏
	「アクティブラーニング型授業への転換と大学・仕 事・社会へのトランジション」	京都大学高等教育研究開 発推進センター教授	溝上 慎一氏
2日目	グループワーク・班別研修	日本体験学習研究所長	津村 俊充氏
3日目	集団行動訓練	至学館高等学校	稲垣 克憲氏
		愛知啓成高等学校	大友 伸夫氏

さらに本校においても学内研修として独自に、本年も12回の研修を下記の内容で、指導教員が生徒との接し方や指導方法、事務的内容を伝授し、教員として一日でも早い自立を目的として実施しています。また、終了後は校長や教頭を囲んでオフサイトミーティングを行い、翌年度の実施計画案に役立てています。

教員研修の推進

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で学校教育に対する期待に応えるには、教員の資質能力向上とスキルアップが必要なため、それに対応できうる教員研修を推進していきます。

多種多様な資質能力を持つ人材の集まりである教員集団が連携することにより充実した教育活動が展開できることから、その能力の保持のためにも研修は重要と考えられます。

研修については、これまでの自分自身の教育活動を振り返るとともに、教育界の最新情報を理解して将来への課題を自覚し、これからのリーダーシップを発揮するためのものです。

本校のほとんどの生徒が大学進学を希望している関係上、大学ごとの入試問題検討会にも積極的に参加し、大学によって毎年変更される問題傾向や入試情報を少しでも生徒に有利な環境に導くべき把握に努めています。

平成28年度 初任者研修 年間実施表

	研修テーマ	実施日時	担当者	研修場所	備考
1	初任研OR	4月25日(月) 15:40~16:30	鷺尾	4号館会議室	教頭
2	高田の歴史と建学の精神について	4月27日(水) 15:40~16:30	学校長		学校長
3	学校法人の規定について	5月9日(金) 15:40~16:30	河北		事務局長
4	教職の実務 中・高の教務	5月23日(月) 15:40~16:30	谷口		教務部長
5	学校評価	6月9日(木) 15:40~16:30	下村		教頭
6	学校の危機管理	6月20日(月) 15:40~16:30	米田		教頭
7	人権推進教育	7月14日(木) 14:00~14:50	水野ヒ		人権教育委員
8	生徒指導	8月5日(金) 10:00~10:50	大西		生徒指導部長
9	教育相談	9月12日(月) 15:40~16:30	米田		教頭
10	特別支援教育・カウンセリング	10月27日(木) 15:40~16:30	的場・ダイクス		養護教育・学校カウンセラー
11	進路指導	11月10日(木) 15:40~16:30	古川		進路指導部長
12	コンプライアンス (服務規程と教育法規)	11月24日(木) 15:40~16:30	下村		教頭

また、公立中学校へ出向いて本校の模擬授業を実施するという事は、本校教員の資質を問われる関係上、普段以上の緊張感で接し、より自分自身の研究も必要となり、教員としての資質向上につながっていくものと考えられます。さらに、日本私学研究所主催の中堅教員研修に参加し(8月3~4日開催、本年2名参加)、1泊2日の短い期間ではありますが、「アクティブラーニング」「中堅教員のマインドセットと教育者としてのミッション」「学校教育における合理的配慮の提供につ

いて「私立学校の現状と課題」の4テーマに基づき講義や討議を通じて意識の高揚に努めました。分散会、総合討議などにより、同年代の教員が交流することで今後の私立学校をリードするための知識能力がつけられ明日への活力が得られる研修会であります。

その研修内容について職員会議等において報告を行うなどし、他の教員とも情報共有することで確実に教員全体の意識向上につながっており、その成果が生徒へ還元されていくことで、教育の質の向上を図っていこうと考えています。

今後も積極的に講習会や研修会、出前授業に積極的に参加し、学内では得ることのできない情報を吸収することで、新人からベテランまでその教員としての資質向上に役立てていくことを目標としていきたいと考えています。

ICT教育とアクティブラーニング導入の検討について

教育界で急激的に導入が進められているICTとアクティブラーニングについて、種々な視点からその導入によってもたらされる教育的効果と、本校の生徒の知的向上のひとつのツールとして、どのように活用していくべきかを研究・検討しています。そのために実践校への見学や講習会に参加し、その導入をめざしています。

きめ細やかな学習指導の推進

本校では、生徒の進度や達成度に応じた指導を行うと共に、生徒の学力及び特質に応じたコース・クラス編成を考慮しながらその指導に努めています。

通常の綿密な計画に基づいた授業は勿論のこと、小テスト、補講、夏期講習といった普段では取り組みにくい授業を実施したり、考査後の個別懇談をするなどして進路実現のためのサポートを実施したりしています。

さらに、夏期休業中においては各学年創意工夫されたセミナーを実施し、苦手な分野の克服に努めており、生徒も有意義な時間を過ごしています。

また、学習以外の面で、不登校や精神的な悩みを抱える生徒の増加が見られますが、本校においては教育支援委員会、生徒指導部、各学年、カウンセラーと協力して保護者や生徒の負担を少しでも軽減できるように努め、明るく元気な学校生活ができるように取り組んでいます。

今後も親切丁寧な繰り返し学習や習熟度に応じた個別指導を行うことにより、学習意欲と実力向上に努めていき、生徒全体が楽しく充実した学校生活を送れるよう、きめ細かく生徒の実情把握に努めていきます。

命の大切さを考える教育の推進

本校の建学精神である「仏教の教え、親鸞聖人の教えに基づく宗教的情操教育」を校訓として、仏教教育による人間味の豊かさを求め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会貢献できる人材の養成を目指した教育を行っています。

月1回の本山参詣や週1時限の一般仏教において自他共にかげがえのない「命」を尊重し、人間は一人で生きられない存在であり、他者と共感共有し支え合って生きる重要さに気づかせています。特にいじめの未然防止といじめを許さない、いじめをさせないことなどを視野に入れて、行事や授業に反映させています。



また、その場で仏教講話を聴聞することを通して、聞くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながると考えています。これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方をじっくり養成しています。いじめ問題に対しても適時アンケートを実施し事実関係を把握し毅然とした指導を行っていきます。

国際交流事業

目 的	国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し、友好を深めること。 互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。 受け入れ家庭が、生徒と共に学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。
-----	---

オーストラリア交換留学生受け入れ

期 間	9月11日(日)～9月23日(金)		
受入校	パレード校	7名(男7名)	引率教員2名
	セント	25名(男13名・女12名)	引率教員3名
	モニカズ校		

本校の授業に参加して生徒の家庭にホームステイすることにより異文化を体験し、さらに日本を象徴する場所伊勢・京都・名古屋・大阪への訪問を通して、日本の素晴らしさに一層興味を抱いてもらうことで、国際交流の意義が発揮できるものと考えられます。台風の影響もありましたが、無事日程を終了しました。

オーストラリア交換留学生訪問

期 間	平成29年3月17日(金)～31日(金)		
訪問校	パレード校	17名(男11名・女6名)	引率教員2名
	セント	16名(女16名)	引率教員2名
	モニカズ校		

各家庭にホームステイすることにより異文化を肌で感じ、本場の英会話を体験することにより、自分の英語能力を試す機会にもなっています。また、友人関係とか、視野の広がりなど国際感覚を養ううえで貴重な経験となっています。

語学研修

イギリス語学研修

期 間	7月15日(金)～8月1日(日)		
人 数	20名	引率教員1名	

イギリスギルフォードにある語学学校のインターナショナルクラスにおける、他国生徒とともに学ぶ英語学習を主眼に置いた研修プログラムに参加し、高校生の短期語学研修を実施しました。



生徒たちは、事前ワークショップにおいて「間違いを恐れずやってみる」という姿勢が大切であるということを体験し、本事業に参加しました。

この研修の対象者は英語に関心が深く、英語学習に意欲的に取り組んでいる生徒の中で選抜された生徒が参加しており、出国前のレベル試験を受けて海外での語学研修（1日6時間を7日間）後もレベルアップの程度を見る試験を受けています。さらにホームステイにより英語の運用能力の向上や英語学習へのより一層の動機付けを促し、学習意欲を育むだけでなく、他国の生徒との交流が国際人としての国際感覚を養うこととなりました。



イングリッシュキャンプ

期 間	中2 7月27日（水）～29日（金）
	高1 8月 1日（月）～ 3日（水）
人 数	中2 171名
	高1 57名

夏休みを利用して英語に慣れ親しむことを目的として中2・高1の希望者を対象に、外国人講師による、イングリッシュキャンプを鈴鹿青少年センターにて実施しました。

2泊3日と短期間でしたが、英語漬けの生活を送り、参加した生徒たちは語学力を伸ばすことができた様子でした。

学校自己点検・学校関係者評価

学校関係者評価委員会

自己評価や保護者、学校関係者による評価の実施・公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民からの理解と参画を得ながら、学校・家庭・地域の連携協力により生徒の穏やかな成長をはかり、健全な学校づくりを推進することを目的としています。

なお、評価委員は委員数9名（教育関係者、学識経験者、地元企業、地域自治会、保護者会）から成り立っています。

学校自己評価

第1回	平成28年4月14日（木） 学校現況について説明した後、各委員から意見をいただき、質疑応答形式で進められました。各委員からは通学路関係やいじめ対策などについて質問がありました。本校からは校長、教頭が出席し、各委員と協議事項について意見交換を行いました。
第2回	平成28年10月27日（木） 平成28年度上半期の学校現況報告、授業アンケート及びいじめ・体罰調査結果報告等に基づいて行われた意見交換では、各委員より建設的な意見をいただきました。
第3回	平成29年 2月16日（木） 生徒指導・安全対策、生徒募集・進学状況等について意見交換を行い、交通安全対策について具体的な意見をいただきました。平成28年度総括として概ね良好な評価をいただきました。

学校自己評価については、例年どおり「学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、より一層の教育活動の充実を図る」という趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革を図っています。

平成28年度の目標	
目指す学校像 (教育理念)	生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。 校訓「言行忠信 表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。 崇高な志と社会に貢献できる人材を育成する。 自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。
重点努力目標	人権・同和教育の推進、進路指導の徹底、基本的な生活習慣の確立、規範意識に則った行動力を育成する、学力の向上と充実錬磨に努める、環境を大切にし、世界に貢献できる人材の育成に努める。
点検・評価の日程	
平成28年4月	前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進
平成28年12月	評価項目の確認と評価方法の決定
平成29年3月末	評価実施
平成29年4月	集計と分析
平成29年5月	職員への結果の公表、評価結果の公表

学校満足度調査

学校生活全般、学習指導、生徒指導、進路指導について、11月にアンケート調査を行いました。

20項目について調査・集計し、学校の努力目標との相違点を洗い出し、原因と対策について教員全員が認識することにより教育改革に努めていくことに繋がりました。主な結果として、昨年と比べて「分かる授業、伸ばす授業が行われている。」の項目は数値が下がり改善の余地があると思われ、「学習上の質問に先生はわかりやすく適切に対応している。」の項目は数値が上昇しており、成果が窺えるなど教育指導における指標とすることができました。

授業アンケート

生徒がよい授業を受け、学力向上につなげるには、教員一人ひとりが授業改善に取り組む必要があります。教員自らが自分の授業を振り返り、自らの課題について分析できるよう生徒による授業アンケートを1学期末と2学期末の2回実施し、各教員に詳細を知らせるとともに、保護者には概要を公表します。1学期末の結果は概ね好評価でした。

大学等との連携事業

学習・進学意欲の向上、各分野への興味・関心の深化を目的として、各学年・コースで、三重大学や鳥羽水族館との連携事業を実施しています。勢水丸乗船やウニの発生観察などの校内では実施することが難しい実験・実習の体験、大学教授による専門的な講義の受講、大学生・大学院生との交流は、参加者に知的な好奇心や創造力を育み、幅広い興味・関心を持ち、積極的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせることができると確信しています。



教職員海外研修

私学教職員海外研究派遣事業

派遣教諭	宇河 晴美
視察先	北欧4ヶ国
視察期間	7月23日(土)～7月30日(土)
視察 研究内容	8日間の旅を通して、福祉国家として、また教育水準の高い国々として名高い北欧諸国を支えているのは、環境保護やリサイクルへの高い関心や、儉約の精神、アンティークに重きを置く国民性にあると感じました。また、年間の多くを冬と夜を主体とし、厳しい自然環境の中で生きる人々は自己責任の意識も強い。今後、教育活動を展開するにおいて啓蒙される点が多くありました。



私学教職員海外研究派遣事業

派遣教諭	糸谷 厚子
視察先	中国 西安-上海
視察期間	8月11日(木)～8月17日(水)
視察 研究内容	英語教育に関する環境が日本と似ている中国で英語が話されている状況を見ることがと、世界の様々な事柄が教材として取り上げられているが西安のシルクロードの出発点と兵馬俑坑博物館、日本仏教の始祖が学んだ青龍寺や国清寺などを巡り世界観を広げることが研修の目的でありました。生徒に英語を使う喜びモチベーションを与え続けることと得てきた世界観を生徒に伝えていきたいと思ひます。



私学教職員海外研究派遣事業

派遣教諭	瀬古 幸弘
視察先	フランス
視察期間	8月14日(日)～8月28日(日)
視察 研究内容	ストラスブールからブルゴーニュ地方を南下し首都パリまで、情報端末と時刻表だけを頼りに一人で旅をしました。極力フランス語を使用し現地の人々と交流することを通じてマナーや振る舞い、考え方などを直接学び取ることができました。彼らの美意識や人生に対する哲学を日本語の表現や読解の過程で生かしていきたいと思ひます。



人権教育研修の推進

本校では、生徒達には「うわさや偏見に流されず真実を確かめ自分自身の考えを持つ」「差別に立ち向かい行動する力をつける」「他者の異なった価値観を尊重しながら仲間同士のつながりを強める」ということを目標として人権教育を実施しています。

さらに、本年も人権センター主催の研修会へ積極参加することにより、教職員の人権意識向上に努めると共に、学苑本部主催の夏期研修人権講演会「性別って2つだけ？～知らないじゃ済まされないLGBT～」を保護者や地域住民と共に拝聴し、人権問題の大切さを痛切に感じられました。

毎年秋の校外宿泊学習において人権問題に関わるコースを組み入れており、その成果を文化祭において発表するなど、中学・高校それぞれ普段の生活において人権を意識したことをテーマに積極的に取り組んでいます。

また、毎年教職員のフィールドワーク（毎年20数名の参加）を実施し、人権問題について積極的に取り組んでいる地域、組織に出向いて直接体感することで感じ得たことを自ら再認識し、生徒への教育の一環として還元しています。（8月25日滋賀県愛荘町における伝統和太鼓づくりと伝統織物工房）人権教育については、学校のみでは推進することが難しいので、今後も地域や家庭との連携が重要と考えられます。

少子化に伴う生徒募集活動

高田中・高等学校公開イベント

小学生を対象とした「学びの広場 in 高田」・中学校入試説明会

高田の魅力を深めるべく興味あるイベントに取り組み、いかにして生徒確保を行うか重要な問題となっている昨今、私立中学校の魅力を最大限に発揮し、その一貫としてより知っていただくために、小学生（4・5年生）を対象とした「学びのひろば in 高田」を年3回開催し、情報発信に努めています。

また、9月22日（木・祝）13時より受験生と保護者を対象とした中学入試説明会を開催し、約400世帯・800名の参加がありました。

学びのひろば in 高田

日 時	8月21日（日）	11月3日（木・祝）	2月11日（土・祝）
テーマ	① 知っておもしろ+仏教語 ② プラネタリウム～今夜の三重の空・世界の空～ ③ おもしろ社会科クイズ ④ 英語であそぼう	① 第7回たかだ算数オリンピック ② 部活動ってなに？～中学校の部活を体験しよう～	① たのしい理科実験 ② 古典の世界をのぞいてみよう ③ 親子で楽しむ数学マジック ④ let's cook
定 員	120名（154名参加）	250名（146名参加）	120名（104名参加）



以上のイベントの他、広くマスコミを利用した広報活動や、塾を対象とした説明会を積極的に実施し、各地域で開催される私立中学展に向いてPRに努めています。

高等学校公開イベント・学校見学会・個別見学会

高等学校に関しては、教員が県内の各中学校を訪問し、受験生と保護者に対し入試やより充実した本校の教育内容について詳細に説明しています。

各中学校訪問のほかに、生徒や保護者を対象とした学校見学会を8月20日(土)に開催し、約1,400名の参加がありました。さらに、より本校を知りたい生徒や保護者に対し、10月29日・11月5日・11月19日・12月3日の各土曜日に個別見学会を開催します。見学会では、学校生活、授業内容及びクラブ活動等について、在校生や卒業生との会話形式の説明や体感型のイベントを行い、本校の良さを理解していただけるようピーアールしています。

また、経済的に不安な家庭においても高等教育が安心して受けられるよう、国の就学支援金制度、県の減免制度に加え高田高等学校独自の助成制度(教育充実費相当額助成)も充実させています。なお、対象基準は就学支援金加算制度に準じます。



学校見学会

日時	8月20日(土)
参加	約1,400名(生徒及び保護者)

個別見学会

日時	10月29日・11月5日・11月19日・12月3日
----	---------------------------

2016 公開イベント
TAKADA HIGH SCHOOL
 開催日 10月29日(土) 11月5日(土)
 11月19日(土) 12月3日(土)
 受付 10:20~10:45
 校内見学・授業見学 10:50~11:40
 学校説明 11:50~12:30
 学校説明会場: 第二講堂(2F) 受付は1Fになります。
 ① 進学希望相談のみ希望 (10:20~)
 ② 入学相談のみ希望 (10:50~)
 ③ 進学相談・進学希望者の方希望 (11:50~)
 ④ 個別見学会のみ希望 (12:30~)
 ⑤ 個別見学会のみ希望 (12:30~)
 ⑥ 個別見学会のみ希望 (12:30~)

学校安全・生活指導、保健計画の推進

学校安全管理の立場から道路交通法改正に伴う交通ルールの遵守、自転車の校内安全点検などを実施すると共に、最近自転車が絡む交通事故が多発している関係上、本校では毎年新入生に対して自動車学校から講師を招き、4月27日に自転車交通安全講習を実施しました。

本校約900名の生徒が自転車通学をしており、学校周辺は狭い道路や見通しの悪い交差点が多いので、基本的なルールや事故の悲惨さを訴え、知識や技術の向上を図り、地域における自転車事故の減少に努めています。さらに生徒と教員が街頭登下校指導をするなど、マナーアップや安全意識の高揚に努めているほか、社会生活面において18才より選挙権が与えられたことにより、高川および6年生を対象に、主権者としての自覚と選挙への意識の高揚をはかるため、「はじめての選挙権～選挙違反をしないために～」と題し、楠井法律事務所の西澤弁護士に講演をしていただきました。

また、学校保健の立場から、校医健診や他の各種検査を通じ、生徒個々の健康状態を把握し常に健康管理に努めると共に、保健だよりを毎月発行しその時期の内容に合った啓発に努めています。新たな感染症が発生した場合などの緊急対策や予防教育の推進についても積極的な取り組みに努めています。



施設整備の整備事業実績

	業 者	金 額	施工・納品時期
空調設備改修工事（2号館2階（EHP））	藤原工業（株）	4,320,000円	5月13日～ 5月18日
空調設備改修工事（第1体育館1階学生ホール（GHP））	東邦ガスエンジニアリング（株）	9,288,000円	6月25日～ 6月30日
空調設備改修工事（本館3・4階、1号館1・2・3階、2号館3階（GHP））	東邦ガスエンジニアリング（株）	49,680,000円	8月11日～ 8月31日
西門石柱・門扉改修工事	（株）高山石材国際貿易&工事、菊山鋼材（株）	8,845,200円	7月21日～ 8月31日
電話交換機更新工事	三友電子（株）	2,451,600円	7月27日～ 7月30日
多目的グラウンド隣接地駐車場整備工事	東海土建（株）	14,040,000円	12月1日～ 2月28日
新JIS規格 生徒用机・椅子等入替（高4・中3年）	愛知（株）	7,007,040円	平成29年3月25・26日



電気空調機

ガス空調機



西 門



電話交換機



多目的グラウンド隣駐車場



生徒用机・椅子

財務の概要

資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

本学苑の資金収支決算総額は43億5,700万円となり、前年度の決算額と比較し1億1,900万円の減額となりました。

平成28年度 資金収支計算書総括

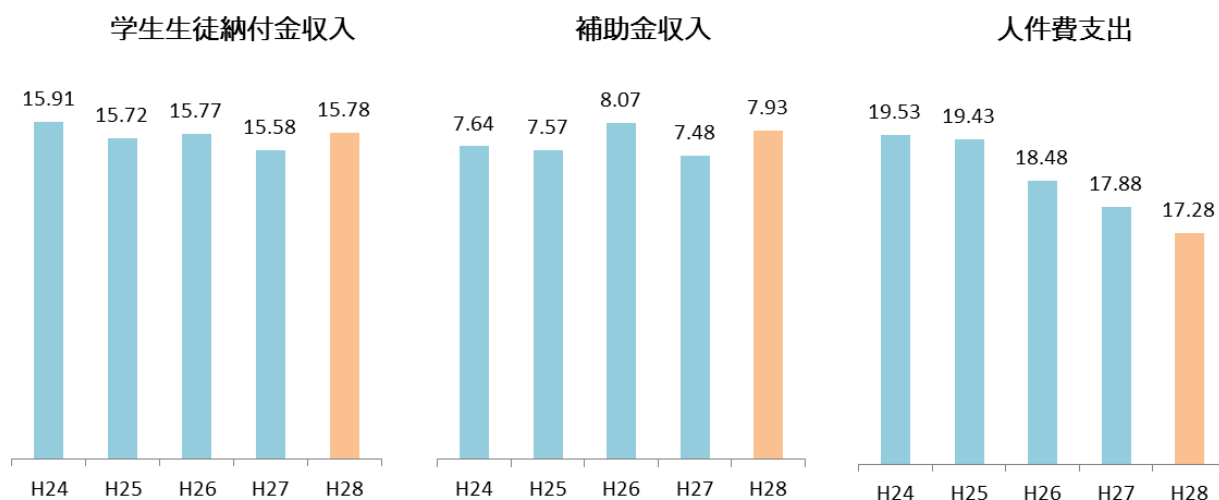
(単位：千円)

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,578,588	20,780	人件費支出	1,728,735	▼ 59,052
手数料収入	51,321	1,150	教育研究経費支出	278,207	▼ 19,273
寄付金収入	10,062	3,056	管理経費支出	93,063	1,150
補助金収入	793,779	45,693	借入金等利息支出	488	122
資産売却収入	110,320	110,320	借入金等返済支出	130,000	0
付随事業・収益事業収入	16,785	3,240	施設関係支出	88,030	▼ 350,255
受取利息・配当金収入	15,454	278	設備関係支出	24,074	▼ 8,260
雑収入	58,854	▼ 71,821	資産運用支出	670,539	252,826
借入金等収入	0	▼ 260,000	その他の支出	1,065,727	10,864
前受金収入	311,043	14,044	資金支出調整勘定	△ 48,178	23,751
その他の収入	1,461,147	▼ 18,849			
資金収入調整勘定	△ 347,956	48,190			
当年度収入合計	4,059,397	▼ 103,917	当年度支出合計	4,030,684	▼ 148,127
前年度繰越支払資金	298,368	▼ 15,497	翌年度繰越支払資金	327,081	28,713
収入の部合計	4,357,766	▼ 119,414	支出の部合計	4,357,766	▼ 119,414

(注) △は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示(以下同じ)。

前年比は平成27年度決算との比較です。

主要科目推移表(5ヶ年)



平成28年度 資金収支計算書（短期大学）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	453,013	12,659	人件費支出	411,885	11,940
手数料収入	8,782	▼ 57	教育研究経費支出	107,690	▼ 18,790
寄付金収入	3,600	3,600	管理経費支出	35,310	5,548
補助金収入	127,681	22,504	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	100	100	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	16,785	3,240	施設関係支出	0	▼ 1,004
受取利息・配当金収入	3	▼ 41	設備関係支出	12,946	5,171
雑収入	38,460	8,973	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	180,910	36,860
前受金収入	56,113	1,109	資金支出調整勘定	△ 16,718	22,810
その他の収入	160,673	33,645			
資金収入調整勘定	△ 101,062	▼ 18,029			
当年度収入合計	764,148	67,703	当年度支出合計	732,023	62,534
前年度繰越支払資金	77,645	▼ 24,888	翌年度繰越支払資金	73,956	▼ 3,689
収入の部合計	841,792	42,814	支出の部合計	805,979	58,845

平成28年度 資金収支計算書（中・高等学校）

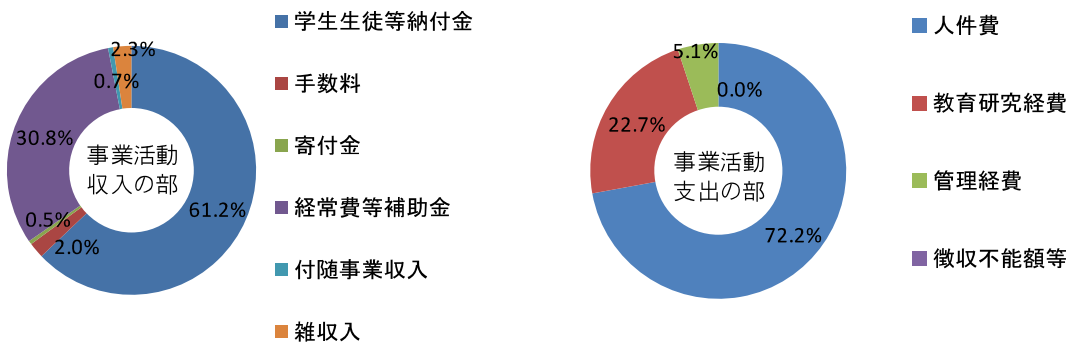
（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,125,576	8,122	人件費支出	1,305,408	▼ 72,286
手数料収入	42,539	1,207	教育研究経費支出	170,517	▼ 484
寄付金収入	2,662	▼ 14	管理経費支出	34,081	▼ 4,457
補助金収入	666,097	23,189	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	100	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	0	3,240	施設関係支出	88,030	▼ 349,251
受取利息・配当金収入	4	▼ 41	設備関係支出	11,128	▼ 11,319
雑収入	19,569	▼ 75,664	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	713,664	▼ 11,763
前受金収入	254,930	12,935	資金支出調整勘定	△ 25,482	338
その他の収入	766,504	▼ 51,888			
資金収入調整勘定	△ 246,894	66,219			
当年度収入合計	2,630,987	▼ 15,934	当年度支出合計	2,297,346	▼ 449,222
前年度繰越支払資金	167,094	23,120	翌年度繰越支払資金	206,089	38,995
収入の部合計	2,798,082	7,187	支出の部合計	2,503,435	▼ 410,228

事業活動収支計算書の概要

事業活動収支計算書では、当該会計年度の諸活動に対応する事業活動収入・支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにします。収支を経常的なものと臨時的なものに、さらに経常的な収支を教育活動と教育活動外とに分けて把握することができます。

科 目		決算額	%	科 目		決算額	%				
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,578,588	61.2%	特別収支	収入の部	資産売却差額	51,762	2.0%		
		手数料	51,321	2.0%			その他の特別収入	0	0.0%		
		寄付金	11,788	0.5%			本部負担金収入	0	0.0%		
		経常費等補助金	793,779	30.8%			特別収入計	51,762	2.0%		
		付随事業収入	16,785	0.7%		支出の部	資産処分差額	0	0.0%		
		雑収入	59,355	2.3%				その他の特別支出	0	0.0%	
		教育活動収入計	2,511,616	97.4%				本部負担金	0	0.0%	
		事業活動支出の部	人件費	1,732,164			72.2%		特別支出計	0	0.0%
			教育研究経費	544,414			22.7%		特別収支差額	51,762	
			管理経費	122,980		5.1%		〔予備費〕			
		徴収不能額等	0	0.0%		基本金組入前当年度収支差額	178,787				
		教育活動支出計	2,399,558	###		基本金組入額合計	△ 198,060				
	教育活動収支差額	112,058			当年度収支差額	△ 19,273					
教育活動外収入の部	収入の部	受取利息・配当金	15,454	0.6%		前年度繰越収支差額	△ 3,939,838				
		その他の教育活動外収入	0	0.0%		基本金取崩額	9,000				
		教育活動外収入計	15,454	0.6%		翌年度繰越収支差額	△ 3,950,111				
	支出の部	借入金等利息	488	0.0%							
		その他の教育活動外支出	0	0.0%							
	教育活動外支出計	488	0.0%		(参考)						
	教育活動外収支差額	14,967			事業活動収入計	2,578,832					
経常収支差額		127,025			事業活動支出計	2,400,045					



基本金について

基本金には第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。

第1号基本金	施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、本年度の組入額は1億9,806万円でした。 主な内訳は、多目的グラウンド取得に係る土地代及び造成費用等です。
第2号基本金	施設設備を取得するために、事前に組入れる金額で、本年度はありませんでした。
第3号基本金	教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。
第4号基本金	学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額であり、今年度は妥当性の検証の結果、900万円を取崩しました。（平成28年度決算のみ、前年度第4号基本金残高の100%を下回った額を取崩し）

短期大学

事業活動収支計算書

(単位：千円)

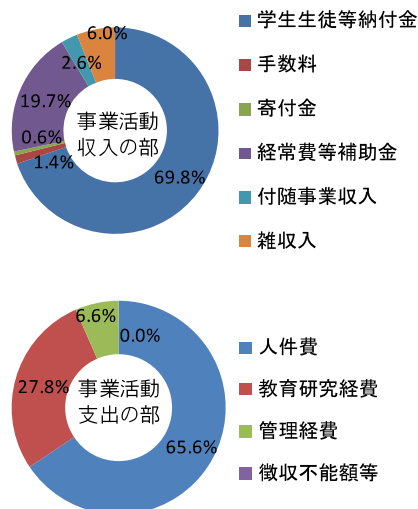
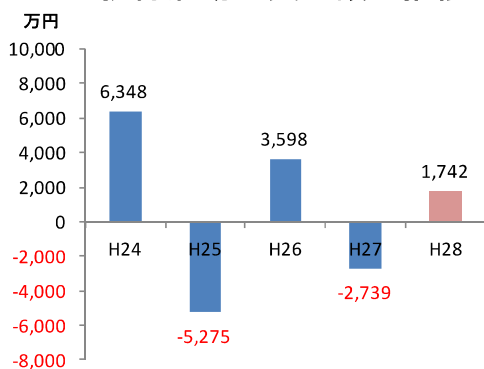
科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	453,013	69.8%	12,659	特別収入	資産売却差額	60	0.0%	60
	手数料	8,782	1.4%	▲ 57		その他の特別収入	0	0.0%	0
	寄付金	3,819	0.6%	3,294		本部負担金収入	0	0.0%	0
	経常費等補助金	127,681	19.7%	22,504		特別収入計	60	0.0%	60
	付随事業収入	16,785	2.6%	3,240		資産処分差額	0	0.0%	▲ 317
	雑収入	38,962	6.0%	8,464	その他の特別支出	0	0.0%	0	
	教育活動収入計	649,041	100.0%	50,103	本部負担金	0	0.0%	0	
	特別収入計	60			特別支出計	0	0.0%	▲ 317	
	特別収入差額	60		377	特別収支差額		60		
	特別収入計	60			〔予備費〕		0		0
事業活動支出の部	人件費	414,477	65.6%	19,733	基本金組入前当年度収支差額	17,484		45,152	
	教育研究経費	175,646	27.8%	▲ 20,744	基本金組入額合計	7,845		15,767	
	管理経費	41,497	6.6%	6,299	当年度収支差額	25,329		60,919	
	徴収不能額等	0	0.0%	0	前年度繰越収支差額	△ 2,386,763		▲ 35,591	
	教育活動支出計	631,620	100.0%	5,288	基本金取崩額	0		0	
	教育活動外収入の部				翌年度繰越収支差額	△ 2,361,434		25,329	
	受取利息・配当金	3	0.0%	▲ 41	(参考)				
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	事業活動収入計	649,104		50,122	
	教育活動外収入計	3	0.0%	▲ 41	事業活動支出計	631,620		4,970	
	借入金等利息	0	0.0%	0	経常収支差額	17,424		44,815	
その他の教育活動外支出	0	0.0%	0						
教育活動外支出計	0	0.0%	0						
教育活動外収支差額	3		▲ 41						
経常収支差額	17,424		44,774						

財務比率推移表 (事業活動収支関係)

比 率	H26	H27	H28	全国平均	比 率	H26	H27	H28	全国平均
人件費率	59.7	65.9	63.9	59.9	学生生徒等納付金比率	69.8	73.5	69.8	77.0
人件依存率	83.9	89.6	91.5	77.8	経常寄付金比率	-	0.1	0.6	0.7
教育研究経費率	28.7	32.8	27.1	31.1	経常補助金比率	-	17.6	19.7	13.1
管理経費率	5.9	5.9	6.4	9.8	減価償却額率	-	11.5	11.0	12.1
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.2	経常収支差額率	-	△ 4.6	2.7	△ 1.1
事業活動収支差額比率	-	△ 4.6	2.7	△ 3.2	教育活動収支差額比率	-	△ 4.6	2.7	△ 2.3
基本金組入後収支比率	-	106.0	96.1	114.6					

全国平均は前年度の値

教育活動収支差額の推移



中・高等学校

事業活動収支計算書

(単位：千円)

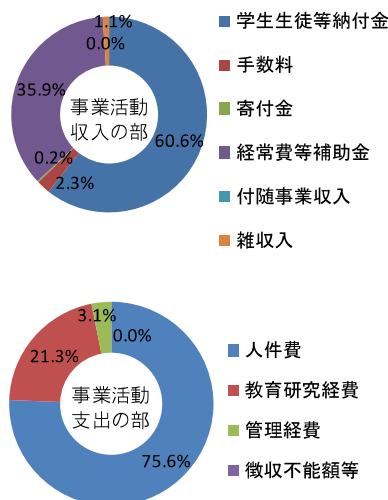
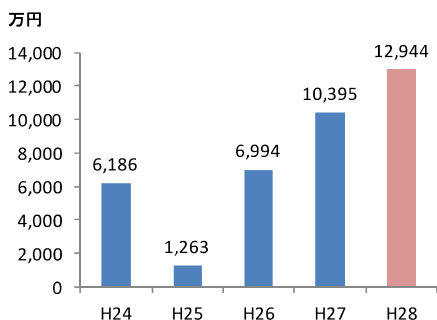
科目		決算額	%	前年比	科目		決算額	%	前年比
教育活動収入の部	事業活動収入の部	1,125,576	60.6%	8,121	特別収支	収入の部	0	0.0%	0
	学生生徒等納付金	1,125,576	60.6%	8,121		資産売却差額	0	0.0%	0
	手数料	42,539	2.3%	1,207		その他の特別収入	0	0.0%	0
	寄付金	4,169	0.2%	1,415		本部負担金収入	0	0.0%	0
	経常費等補助金	666,097	35.9%	23,190		特別収入計	0	0.0%	0
	付随事業収入	0	0.0%	0		支出の部	0	0.0%	0
	雑収入	19,569	1.1%	▲75,664		資産処分差額	0	0.0%	0
	教育活動収入計	1,857,951	100.0%	▲41,730		その他の特別支出	0	0.0%	0
	事業活動支出の部	1,306,245	75.6%	▲79,284		本部負担金	0	0.0%	0
	人件費	1,306,245	75.6%	▲79,284		特別支出計	0	0.0%	0
教育研究経費	368,768	21.3%	9,541	特別収支差額	0		0		
管理経費	53,503	3.1%	2,532	[予備費]			0		
徴収不能額等	0	0.0%	0	基本金組入前当年度収支差額	129,439		25,441		
教育活動支出計	1,728,516	100.0%	▲67,211	基本金組入額合計	△204,853		119,987		
教育活動収支差額	129,435		25,481	当年度収支差額	△75,414		145,428		
教育活動外収入の部	収入の部	4	0.0%	▲41	前年度繰越収支差額	311,410		▲220,842	
	受取利息・配当金	4	0.0%	▲41	基本金取崩額	0		0	
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	翌年度繰越収支差額	235,997		▲75,414	
	教育活動外収入計	4	0.0%	▲41	(参考)				
	借入金等利息	0	0.0%	0	事業活動収入計	1,857,955		▲41,771	
教育活動外支出の部	支出の部	0	0.0%	0	事業活動支出計	1,728,516		▲67,211	
	その他の教育活動外支出	0	0.0%	0					
教育活動外支出計	0	0.0%	0						
教育活動外収支差額	4		▲41						
経常収支差額	129,439		25,441						

財務比率推移表 (事業活動収支関係)

比率	H26	H27	H28	全国平均	比率	H26	H27	H28	全国平均
人件費率	73.8	72.9	70.3	60.4	学生生徒等納付金比率	57.7	58.8	60.6	49
人件依存率	128.9	124.0	116.1	123.2	経常寄付金率	-	0.1	0.2	2.2
教育研究経費率	20.1	18.9	19.8	25.8	経常補助金率	-	33.8	35.9	37.1
管理経費率	2.6	2.7	2.9	5.2	減価償却額率	-	10.5	12.5	9.8
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.4	経常収支差額率	-	5.5	7.0	
事業活動収支差額比率	-	5.5	7.0		教育活動収支差額比率	-	5.5	7.0	
基本金組入後収支比率	-	114.0	104.6						

全国平均は前年度の値

教育活動収支差額の推移



平成28年度補助金一覧表

(単位：千円)

補助金名	当年度 ①	前年度 ②	差異 ①－②
短期大学補助金 合計	127,681	105,177	22,504
国庫補助金 計	113,609	97,530	16,079
私立大学等経常費補助金	113,609	97,460	16,149
障害者介助等助成金	0	70	△ 70
地方公共団体補助金 計	14,072	7,647	6,425
結核健康診断予防接種費補助金	82	77	5
高等教育機関魅力向上支援補助金	13,990	7,570	6,420
中・高等学校補助金 合計	666,097	642,908	23,190
高等学校補助金 計	515,458	492,689	22,769
地方公共団体補助金 計	515,458	492,689	22,769
私立高等学校等振興補助金	507,849	483,846	24,003
授業料減免補助金	1,486	2,920	△ 1,434
入学金補助金	1,148	1,103	45
人権教育推進事業費補助金（人権教育推進事業）	625	438	188
結核健康診断予防接種費補助金	205	199	5
外国人語学指導助手補助金	300	300	0
教育改革推進事業補助金	600	600	0
私立高等学校振興補助金（津市）	2,655	2,688	△ 33
私立高等学校振興補助金（鈴鹿市）	371	375	△ 5
国際交流事業補助金（津市）	100	100	0
スポーツ奨励補助金（津市）	120	120	0
中学校補助金 計	150,639	150,219	420
地方公共団体補助金 計	150,639	150,219	420
私立高等学校等振興補助金	150,485	150,143	342
人権教育推進事業費補助金（人権教育推進事業）	154	76	78
総 計	793,779	748,085	45,693

貸借対照表の概要

貸借対照表は、平成29年3月31日現在の財政状態を示しています。

平成28年度 貸借対照表（総括）

（単位：千円）

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	8,090,712	8,031,953	58,759
有形固定資産	6,501,141	6,678,812	△ 177,671
土地	1,025,123	1,023,266	1,857
建物	4,169,568	4,299,888	△ 130,320
構築物	934,698	977,847	△ 43,149
教育研究用機器備品	100,557	110,277	△ 9,720
管理用機器備品	8,055	6,611	1,444
図書	221,230	218,669	2,560
車輛	11,491	12,334	△ 843
学苑林	29,919	29,919	0
建設仮勘定	500	0	500
特定資産	1,490,250	1,282,484	207,766
退職給与引当特定資産	312,490	261,009	51,482
施設設備拡充引当特定資産	1,177,760	987,345	190,415
長期火災保険特定資産	0	34,131	△ 34,131
その他の固定資産	99,321	70,657	28,664
借地権	2,258	2,258	0
電話加入権	1,286	1,286	0
施設利用権	579	660	△ 81
ソフトウェア	1,646	1,652	△ 6
有価証券	80,070	49,947	30,123
差し入れ保証金	350	350	0
長期前払金	13,133	14,505	△ 1,372
流動資産	476,202	492,849	△ 16,648
現金預金	327,081	298,368	28,713
未収入金	50,957	104,512	△ 53,555
前払金	578	471	107
立替金	38,266	31,813	6,453
修学旅行費預り資産	52,524	52,489	36
卒業諸費預り資産	6,794	5,196	1,599
資産の部合計	8,566,914	8,524,803	42,112
固定負債	242,057	238,629	3,429
退職給与引当金	242,057	238,629	3,429
流動負債	442,905	583,008	△ 140,103
短期借入金	0	130,000	△ 130,000
未払金	47,707	71,565	△ 23,858
前受金	311,043	296,999	14,044
預り金	24,826	26,758	△ 1,932
修学旅行費預り金	52,524	52,489	36
卒業諸費預り金	6,804	5,198	1,607
負債の部合計	684,962	821,637	△ 136,675
基本金	11,832,063	11,643,004	189,060
第1号基本金	11,660,063	11,462,004	198,060
第4号基本金	172,000	181,000	△ 9,000
繰越収支差額	△ 3,950,111	△ 3,939,838	△ 10,273
翌年度繰越収支差額	△ 3,950,111	△ 3,939,838	△ 10,273
純資産の部合計	7,881,952	7,703,166	178,787
負債及び純資産の部合計	8,566,914	8,524,803	42,112

注記 1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

○徴収不能引当金・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

(短期大学) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 95,628,940円 の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

(中学校及び高等学校) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 999,004,029円 から三重県私学振興会より交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

(2) その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

2. 重要な会計方針の変更等

該当無し

3. 減価償却額の累計額の合計額

5,192,735,060円

4. 徴収不能引当金の合計額

0円

5. 担保に供されている資産の種類及び額

0円

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額

9,661,824円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

	当年度(平成29年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	370,070,136	399,421,066	29,350,930
(うち満期保有目的の債券)	(39,679,462)	(39,909,994)	(230,532)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	260,000,000	243,626,113	△16,373,887
(うち満期保有目的の債券)	(260,000,000)	(243,626,113)	(△16,373,887)
合 計	630,070,136	643,047,179	12,977,043
(うち満期保有目的の債券)	(299,679,462)	(283,536,107)	(△16,143,355)
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	630,070,136	-	-

② 明細表

(単位 円)

種 類	当年度(平成29年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 券	390,000,000	389,704,400	△295,600
株 式	40,390,674	57,546,072	17,155,398
投資信託	199,679,462	195,796,707	△3,882,755
貸付信託	-	-	-
その他	-	-	-
合 計	630,070,136	643,047,179	12,977,043
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	630,070,136	-	-

財務比率推移表

(単位：%)

比 率	H26	H27	H28	全国平均	評	算式 (×100)	説 明
固 定 資 産 率	93.7	94.2	94.4	84.1	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
有 形 固 定 資 産 率	78.1	78.3	75.9	60.5	▼	$\frac{\text{有 形 固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているか
特 定 資 産 率	15.4	15.0	17.4	18.4	△	$\frac{\text{特 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	長期に亘って特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況はどうか
流 動 資 産 率	6.3	5.8	5.6	15.9	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
固 定 負 債 率	2.8	2.8	2.8	6.1	▼	$\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	長期的な負債構成のバランスと比重はどうか
流 動 負 債 率	5.2	6.8	5.2	5.5	▼	$\frac{\text{流 動 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	短期的な負債構成のバランスと比重はどうか
内 部 留 保 率	11.1	9.5	14.2	25.5	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	特定資産と有価証券と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合はどうか
運 用 裕 資 産 率	57.6	58.1	77.1	1.8	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{外 部 負 債}}{\text{経 常 支 出}}$	一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているか
純 資 産 率	92.0	90.4	92.0	88.6	△	$\frac{\text{純 資 産}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	純資産の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
繰 越 収 支 差 額 率	△ 44.2	△ 46.2	△ 46.1	△ 14.9	△	$\frac{\text{繰 越 収 支 差 額}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	繰越収支差額の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
固 定 比 率	101.8	104.3	102.6	94.9	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産}}$	土地・建物等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか
固 定 長 期 合 率	98.8	101.1	99.6	88.8	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産} + \text{固 定 負 債}}$	自己資金のほか長期借入金で固定資産を取得する原則にどの程度適合しているか
流 動 比 率	122.1	84.5	107.5	301.6	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	1年以内に償還する流動負債に対して1年以内に現金化が可能な流動資産はどの程度用意されているか
総 負 債 比 率	8.0	9.6	8.0	11.4	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	純資産に対する他人資金の比重はどうか
負 債 比 率	8.7	10.7	8.7	12.9	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{純 資 産}}$	他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないか
前 受 金 率	107.6	100.5	105.2	462.3	△	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	翌年度分の入学金等が現金預金の形で適切に保有されているか
退 職 給 与 引 当 特 定 資 産 保 有 率	110.6	109.4	129.1	59.1	△	$\frac{\text{退 職 給 与 引 当 特 定 資 産}}{\text{退 職 給 与 引 当 金}}$	退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているか
基 本 金 比 率	101.5	98.8	99.9	97.5	△	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基 本 金 要 組 入 額}}$	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合はどうか
減 価 償 却 比 率	42.8	45.2	45.5	52.2	～	$\frac{\text{減 価 償 却 累 計 額 (図 書 除 却)}}{\text{減 価 償 却 資 産 取 得 価 額 (\text{〃})}}$	減価償却累計額が取得価格に対してどの程度占めているか
積 立 率	32.4	31.4	34.9	77.3	△	$\frac{\text{運 用 資 産}}{\text{要 積 立 額}}$	持続的かつ安定的な経営を継続するために必要な運用資産の保有状況はどうか

評価指標 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない

全国平均は前年度の値

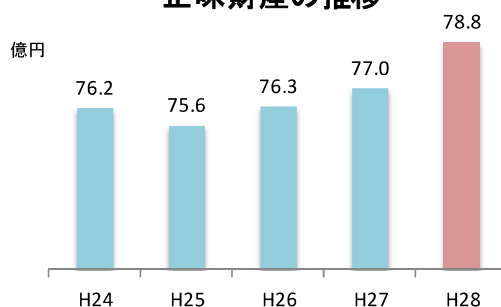
財産目録

(単位：千円)

一、	資	産	総	額	8,566,914	
内	1.	基	本	財	産	6,472,868
	2.	運	用	財	産	2,094,047
二、	負	債	総	額	684,962	
三、	正	味	財	産	7,881,952	

項 目	数 量	金 額
(一) 資 産		8,566,914
1. 基 本 財 産		6,472,868
(ア) 土 地	102,865.92 m ²	1,025,123
(イ) 建 物	39,650.03 m ²	4,169,568
(ウ) 構 築 物	217 点	934,698
(エ) 図 書	98,939 冊	221,230
(オ) 教育研究用機器備品	16,443 点	100,557
(カ) 管理用機器備品	160 点	8,055
(キ) 車 輦	8 台	11,491
(ク) ソフトウェア	2 本	1,646
(ケ) 建設仮勘定		500
2. 運 用 財 産		2,094,047
(ア) 現金及び預金		327,081
(イ) 修学旅行費預り資産		52,524
(ウ) 卒業諸費預り資産		6,794
(エ) 未 収 入 金		50,957
(オ) 借 地 権	1 点	2,258
(カ) 電 話 加 入 権	15 基	1,286
(キ) 施 設 利 用 権	3 点	579
(ク) 差し入れ保証金		350
(ケ) 有 価 証 券	29,832,179.00 株	80,070
(コ) 土 地	61,913.00 m ²	29,919
(サ) 退職給与引当特定資産		312,490
(シ) 長期火災保険特定資産		0
(ス) 施設設備拡充引当特定資産		1,177,760
(セ) 長 期 前 払 金		13,133
(ソ) 前 払 金		578
(タ) 立 替 金		38,266
(二) 負 債		684,962
1. 固 定 負 債		242,057
(ア) 退職給与引当金		242,057
2. 流 動 負 債		442,905
(ア) 短 期 借 入 金		0
(イ) 未 払 金		47,707
(ウ) 前 受 金		311,043
(エ) 預 り 金		84,155
(1) 職員源泉等預り金		24,826
(2) 修学旅行費預り金		52,524
(3) 卒業諸費預り金		6,804

正味財産の推移



平成 28 年度 事業報告書

学校法人 高田学苑

平成 29 年 6月 発行

学校法人 高田学苑 学苑本部

〒514-0125

三重県津市大里窪田町字下沢2865番地の1

TEL 059-231-0367 FAX 059-231-0370

